

「岳陽」と共に

あくまでも自分史として

(総集版)

P a r t 1

(創刊号～第12号)

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

令和5年11月

※本版は、令和5年4月から始めた新通信『岳陽』と共に」を通して読んでいただこうと思ひ、その前半分（創刊号～第12号）を総集したものです。改めての、ご笑読をお願いするものです。なお、一部若干の手直しをしていますこと、ご了解下さい。

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市大謝名 3-13-24

教育協働研究所～岳陽舎～（井上講四宅）

Tel:098-963-9282／E-mail: gakuyou17@outlook.jp

HP URL : <http://www.gakuyou.jp>

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

創刊号

発行日
2023.4. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○これからは、「自分史」として書いていこう！

早いもので、令和5年も、既に、4月半ばとなっている。昨年は、70歳ということ、古希に絡ませ、自らのこれまでを振り返り、次なるこれから(いつまで続くかわからないが?)を展望すべく、こだわりの一年を送ったわけであるが、これを受けて、ここに、自称文筆家として(これしかない)、新たな形を模索することとした。それが、この、「岳陽」と共に」と題する書き物の発刊である。だが、これは、言うなれば、私自身の「自分史」の性格をもつものであり、読者には、その旨了解を賜り、寛大な眼差しを向けて頂くものである。要は、あくまでも自分のための書き物であり、自分の生き様、来し方を振り返っていくことを主眼とするものであるということである。

ちなみに、タイトルにある「岳陽」という言葉は、単なる「峻険な三岳の間から上り出する太陽」を指しているのではない。もちろんそこには、その情景に託した、私自身の密かな想いが込められていることは事実ではあるが、そこには、もう一つ、今となつては、誠に摩訶不思議な物語が秘められているのである！

ただし、その物語については、裏面担当の、もう一人の私?、堂本彰夫氏に語ってもらうことにしたい。彼が、どのように、その物語を行うのかは、私自身はあずかり知らないが、何故、私が、そのように表現したのかの理由は、そこで明かされるとのことである!!

末尾に、明後日(17日)、私(達?)は、「古希」から飛翔?する。どんな飛翔となるのか?容貌は仕方ないが、みっともない生き様だけは見せたくないものである!

○「古希を迎える粋な仲間達」が後押しを!

ところで、私の、このような新たな飛翔?をどのように思ってくれるのかは、全くの未知数であるが、ひよんなことから、この一年、メールやズームでの交流を行った、高校時代の仲間(9人の「古希を迎える粋な仲間達」との関係は、やはり抑えておかなければならない。

というのも、おそらくこの仲間達との出会い(再会?)がなかったら、私の「古希」を彩る想いも、体験も、決してなかったということであるが、その彼らとの交流が、私の「古希」の記念(思い出づくり?)を後押ししてくれたことは間違いないということである!そして、これがなかったなら、過日終了した「同期会(同窓会)」もおそらく実現しなかったであろう!!

なお、その、一年間続けてきたメール交流(随時やズーム交流(原則月1回)の足跡は、「唐津東高第15期生ニミニ交流誌(ききき通信)(通巻29号)」という形で収めてきたが、これは、私にとつては、予期せぬ財産(奇跡?)となることは言うまでもない(冊子にして共有してもいい!ズームの方は、動画にして、すべて保存している!)

そう言えば、かの「同期会」で、52年ぶりの告白?を受けた。穏やかな二次会の席上であったが、当時、名門?我が東高の不祥事(体育祭打ち上げ飲酒事件)相当数が1週間の謹慎処分!実は私も、連座していた!)の時に、私(井上)に勧めたのは自分(K君)で、そのことが、ずーと喉元の小骨のように刺さっていたという!

何という告白?であろうか?これもまた、この出会い(再会?)から生まれた不思議な縁(奇跡?)である!!

○「同期会(同窓会)」は、決して「ある」ものではない!

そこで、改めて、先月末(27日)に、「古希」にかこつけた高校の同期会(県立唐津東高校第十五期生)が、地元唐津(シーサイドホテル)であった。総勢七十余名の参加であったが、五十二年ぶりの再会となった人も、数多くいた。名乗りあわなくても、すぐに分かる人もいたが、どうみても誰だか分からない人も、少なからずいた(特に女性)。八クラスの内の一クラス分の人(四五人)が、既に物故者となっていたが、今後は、これに拍車がかかることは言うまでもない!!

とにかく、これからは、一人ひとりが、自らの生を全うすべく、残された日々を、身体の衰え・機能低下に喘ぎながらも、それぞれの地で、いかに自分らしく過(こ)していかかが問われる。「古希」は、さしずめ、そのための最終出発点(覚悟の年)ということになるわけである!!したがって、この同期会に集まった面々は、おそらくそのことを自覚し、そのための時間(ふんぎり?)として、かの故郷の地を訪ねたものと思われる!!ただし、当地に住む面々については、この限りではない!!

いずれにしても、それは、言うなれば、最後の望郷であり、極論すれば、それとの決別(卒郷?)の機会でもあったろう!!「もう、こうした形で、この地を訪れることはない!」、そういう思いであったらうということであるが、少なくとも、私のような、長らく故郷を離れて、他の地で生きている人間にとつては、これが最後の機会となるということである!!

なお、今回の「同期会」(もう一つの、大掛かりな組織(本部/支部)の名の下に行われる「同窓会」のような会ではない!)への参加に当たって、つくづく思ったのは、そうした会は、「ある」ものではなく、誰かが、確かな想いと責任でもって、「やる」ものであるということである。それがないと、決して実現しない!年月を経ると、さらに!ただただ世話人に、感謝である!

ということ、これまで組織的な会(同窓会)に縁がなかった私には、このような会(同期会)の有難さが身に染みて分かった!この年になってからの大きな収穫であるが(かなり遅い?)、是非とも、このことは、ここに書き記しておきたい!(井上)

○改めて、「岳陽」の由来とは？

さて、表面の井上氏に替わって、この裏面は、私「堂本」が担当することになるが、まずは、誌名にある「岳陽」の、もう一つの由来を記すことから始めたい。

もうはるか前のことであるが(四十歳頃)、福岡県篠栗町にある県立社会教育総合センターで、毎年5月の第3土日に開かれていた(今も開かれている)、ある実践研究交流会の懇親会の二次会で出会った、佐賀県から来られていたKさんという女性(今は消息不明?)に、私の守護霊(背後霊)を見てもらうという「僥倖?」があった。

その時に知らされたのが、実は、左の絵の人物である。他にも何人かは見えるが、その主たる霊は彼で、彼は、中国唐代の王族(青年貴公子?)で、あまりにも高潔で自分で言うのも気恥ずかしいが、確かそういう物言いであったように記憶している!ある意味世間知らず?、それ故に、他の王族達からは疎んじられていたという。まるで、私のその後を暗示していた(詳しくは書けないが!)!!その彼を描き(説明文もあった?)、私に送り届けていてくれたのである(何とそこには、**岳陽**の字も!)。



当時の私は、今よりは、かなりふつくらとしていたので、彼との親近感はあまりなかったが、最近の私の顔貌は、それに近づいている

ようにも見える(だから、その字を使いたい?)!!

とにかくKさんには、その後の私の姿が見えていた!! 驚愕と言えば、あまりにも驚愕である!

※参考までに、中国湖南省岳陽市(洞庭湖の近く)には、「岳陽楼」という楼閣があり、唐代の文人達が集つていたらしい。彼女は、そのことを知っていたのであろう!!

〈短歌に託して〜これからも、これは必須である!〉

・「岳陽」に導かれつつ 我は今
想いも新たに 「古希」を越ゆ

・桜舞う ふるさと歩く 古希の連れ連れ(徒然)

行く先々に 思い出あり

・五十二年の歲月 いかにもありしか

若き日の かの告白のネタ ただただ驚き

・改めて 「岳陽」に託す 我が思い

そこに込められし 怪しげな縁

・よくぞ こんなことまで 調べ上げ

ただしそれらが 我を惑わす

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕①

○「老松おいま」に隠された北部九州の秘密

やはり最後は、古代史探訪である!私堂本にとつては、それは、単なる歴史好きということではなく、自国の成り立ち時の不明さ(嘘?)とその原因、そして、改めての真実を、自分(達)なりに知っておきたい!それが、この国に生を受けた一人の人間(国民)としての責務なのではないか(嘘?)をつかれているのが悔しいとも?言い過ぎか?、そう思うからである!

だが、そうは言っても、所詮素人、そんな大それた所業など、土台無理な話である!専門の研究者はともかく、長い年月と労力をかけて、必死に追いかけてきた先人達に申し訳ない(ネット上には、そうした人達が山ほどいる!)!そんなことを思いながらの、我が古代史の旅でもあるわけであるが、とは言え、少しは見えてきたものもある!!

あるいは、これまでの多くの知見の整合性の道筋みたくも、いくつか見えてきたようにも思う(要は、有無な情報や研究成果が多々あるにも拘わらず、それらは、一つにはまとまらず、同じ国の歴史なのに、誠に奇妙な状態(バラバラ?)となっている!)!!

ということでは、「堂本彰夫の古代史旅枕」と題して、その当たりのことを、改めて記していこうと思うが、今回は、先年同期会に際して訪れた(それが、「旅枕」ということでもある)、福岡県朝倉市の「下洲したす老松神社」をネタに、「老松」に隠された北部九州の秘密?について触れておきたい。

まず(これは、ネット情報からであるが)、この下洲老松神社は、「秋月への入口の甘木待丸・三輪内村と秋月街の中間に当たり、楠の太木が繁る境内の広い神社」であるが、福岡県神社誌によれば、祭神は「神功皇后」と「菅原神、吉祥女」とされているということである。しかし、社殿には「梅鉢紋」(菅原神)を表す(が打たれてはいるが、実際は、「菅原神、吉祥女」は祀られていないし、神功皇后も、本殿後ろの撰社群の中の「忌宮いみのみや」神社)に関連はあるが、本殿には祀られていない!したがって、実際の神社祭神が異なっているというのである!!

もちろん、この異変?については、どういうことか、私にはよく分からないのであるが、この「老松神社」は、通常(表面的には、菅原道真とその親族を祀るとされているが、実は「開化天皇(第9代)「(あるいは「大國主命」?)を隠し祀る神社なのではないか(天満/天神||菅原神の名の下、開化天皇が消されている?隠されている?)!!そういうことが言われているのである!!福岡県内には、そのような老松神社が11(64?)社あるらしいが、そこには、大変な秘密が隠されている!!ならば、どんな秘密が?そして、そうであれば、何故そうなっているかなのである!!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉事情により、発刊日を二日程早めましたが、とにかくここに、思い出深き『こきこき通信』後の形をなすことが出来ました!おそらく、これが、私(達?)の、最後の通信(パソコンを使って文章を作成し、それをネットにあげる)と)となるかもしれませんが、みなさんの、心からの「笑談」を期待しています。改めて、よろしく!

(井上ノ堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 2 号

発行日
2023.4.30
編集・発行
井上講四/堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「傷心？」から始まった、私の「第2の人生」!!

ということ、ここから、改めて、自身の「自分史」めくりということになるが、まずは、多少？感傷的とはなるが、『傷心？』から始まった、私の『第2の人生』!! ということから始めていきたい。これに関しては、当時の、次の文章がすべてを物語っている！改めて見てみると、

「...それを支えたのは「意地？」だった!!...この「教育協働への道」も、何とか100号を迎えることとなった! :長年勤めた(26年間)琉球大学での職を、ある事情(想い)から、定年2年前を前倒しして辞し(その後、非常勤3年を行ったが)、ここ沖縄の地を去ることなく、爾来6年、遠望の東シナ海を見遣りながら、ある意味悠々自適に生きてきたわけであるが、その日々は、実は、まさに「傷心？」から始まったと言えるであろう(そのこの状況を伝えるものが、別コーナーで綴っていた「東シナ海眺望記」であり、「じのん道遺記」である!)!!本当に辛かった!そして、今思えば、よくぞここまで来たものである!!とは言え、やはり、今思い返すと、そういう時があったからこそ、また、一方で、その中に、自らの魂の呻き、自らの思いを、言葉に(下手な短歌を交えながら)、そして、一部写真に託してこられたからこそ、今があることも真実である!そして、それを支えたのが、もう一つの、私の「意地？」であったことも事実であろう!!まさに、「傷心？」と「意地？」が、この6年間の私をつくり上げたということになるが、その一方の「意地？」の具体的な形が、この「教育協働への道」という教育論考(雑文?)ということなのである!」

以上だが、古希を越えた今も、この想いは変わらない!

○改めて、「教育協働への道」に託したもの!

とは言え、その「傷心？」と「意地？」の向こう側にあったものは、たとえ世間から遠ざかっても、何とか生きていかなければならない(本当に、職を失えば、厳しい現実が待っている!今までの自分とは、そして、今までやってきたことは何だったのか?そういう自己猜疑にも似た感情に苛まれる!)!そうでなければ、私を信じてくれてる人、頼りにしてくれている人に申し訳ない(もちろん、我が奥さんは、その最たる人であるが!!)!

ただ、その際、本当に救いだっただけ、最後のゼミ生達であり、一部とはなつたが?、変わらぬ厚情を頂いた人々(卒業生達を含む)との交流であったわけであるが、とりわけ自分自身を奮い立たせたのは、最初の頃の卒業生(進?ゼミ生S君:当時日教育大学の准教授に誘われた、ズームによる交流(↓教育協働ゼミナール)である。

詳しくは、ここでは書けないが、そこでの出会いと交流が、私の中に沈潜していた「教育への思い」の覚醒、そして、長年唱えてきた「教育協働」のしくみづくり(心とづくりとまっすぐりの循環)への、新たな(最後の?)コミットメントの機会となつたのである!

ちなみに、そのズーム交流であるが、ある意味、その気になれば?、何とかなるものではある!!あれだけ、今で言うICTへの懷疑?を叫んでいた私が、その恩恵に浴しているのである(変われば変わるものである!)。とにかく、パソコンとの付き合いが、今の私を支えているわけであるが(目や四肢の不調とつき合いながら)、これがいつまでやれるかは、神のみぞ知るところである!!

○心残りには、「親バカ？」の締め!!

ということ、今、こうして、曲がりなりにも、心穏やかに、ここ沖縄の地で、第二の人生を送れている私であるが、強いて一つだけ挙げれば、気がかりなことがある!それは、多少文脈が違うが、三人の娘達、とりわけ次女、三女のことであるが(もちろん長女のこともそうであるが、その気がかりは、彼女の、三人の息子達、つまり孫達に移行している)、俗に言う「年頃」からは、遥かに遠ざかってしまっている!こればかりは、父親の私からすれば、いかんともしがたく、今の彼女達の生き様を、傍から見守ることしか出来ない!!それが、ある意味辛い!!

「それでいい、それでいいのだ!」、「要は、自分が納得出来る今、そして、これからであればいいのだ!」。そう自らに言い聞かせながら(彼女らに思いを寄せながら)、老いゆく父親としての思いを抱いてはいるのであるが、果たして、これからどうなっていくのであろうか?言うなれば、心残りには、「親バカ？」の締めということであろうか!!

そんな中、今、改めて思い出すのは、彼女達の、それぞれの「二十歳の誕生日」に送った色紙のことである!まさに親バカの極致であろうが、そのそれぞれに、彼女達が示していた(否、私が、無理やり、そう思おうとした?ただし、それなりの根拠?はあった?)、生き方の匂いみたいなものを、三つの言葉に託して書いていたのである!

今も、彼女達が、その色紙をもっているのかどうか?そして、その言葉を、今はどう思っているのかは、もちろん定かではないが(机のどこかにしまっ込んで、そのことを忘れてるかもしれない?)、それが、それぞれ、「感性」(長女)、「知性」(次女)、「理性」(三女)という言葉である!住む場所も、仕事も、そして人生模様も、それぞれ異なっているが、現在もなお、私は、その感覚?を変わらず大切にしていきたいと思っている!まさしく、この期に及んで、再度の親バカ?ということである!!

ちなみに、おじいさんという思いや立場は、あまり前面には出てこない!!何とも薄情な「じいじ」ではある!!この間のコロナ過が、それに拍車をかけた!!

(井上)

○卒郷?で、改めて、「子ども(童)に戻る?!

さて、今度は、私堂本の番であるが、望郷を終え、卒郷を迎えた今、何故か書きたくなつたことは、小さかつた頃の自分である(何だか矛盾しているようだが?)!!

田幸(ターンム) *の子: ねえ、ねえ、おとうさん! 何やら棒切れとビニール袋をもつたおじいさんが、水の流れを見ながら、こちらに近づいてくるよ! 何をするんだらうね?

田幸の親: 多分、それはメダカ捕りだよ!

田幸の子: え? どうして分かるの? それよりも何よりも、どうして、そんなもので捕れるの?

田幸の親: 実は、あのおじいさんは、去年もここにきて捕つていったのだよ! 信じられないかもしれないけど、田んぼと小川の間に出来ている小さな流れにビニール袋を入れ、小石二つを重しにして、そこに沈めておくのだよ!

田幸の子: どうして、そんなんで捕れるの? 網で掬うということなら分かるけど...

田幸の親: 昔は、網なんてなかったのだから、子ども達は、知恵(じんぶん)を働かせて、魚を捕つていたのだらうね?

田幸の子: でも、それだけでは捕れないよね?

田幸の親: そうだね! だから、持つている棒切れで、流れの上の方から、そおと叩いて追い込んでいくんだよ!

田幸の子: へえ。本当に、そんなんで捕れるんだ!

田幸の親: もちろん、そんなふうまくいかなきゃ! だけど、何度も粘り強くやれば、その内の一回位はうまくいくのだよ!

田幸の子: そうなんだあ! 簡単にはいかないんだあ!

田幸の親: そういうことだね! でも、工夫と我慢で、何とかやれる! そういうことを、このおじいさん達は、今でも覚えていて、という(こと)だよ! だけど、今となつては、何とも珍しいね!

※水のきれいな水田で栽培される里芋の一種(水芋とも)。沖縄では「ターム」と呼ばれ、おいしく食されている。↓ドウルワカシーなど

※沖縄では、知恵のことを「じんぶん(人文?)」と呼んでいる。年をとつても、「子ども」の自分がある!! しかし、それは、決して望郷のそれではない!! そこに、卒郷?も!!

短歌に託して思ひ出される、過去のあれこれ! <

・「傷心?」と「意地?」 そう語れるは
また幸せ? 通常(まうづ)は、それさえ言えず!!

・ひとづくりは まちづくり
まちづくりは ひとづくり いかにそを

・二十歳の日に 三人娘をぎれに送つた 三つの言葉
今なお然りと 再度の親バカ

・今年も密かに メダカ捕り
ビニール袋と 石ころ二つ 流石昭和童

・特別コーナー〜堂本彰夫の古代史旅枕②〜
改めて、「老松」とは?

先に、福岡県に数多く存在する「老松神社」は、かの菅原道真とその眷属を祀る神社とされているが、本当は、「開化天皇 第9代/欠史八代の最後、あるいは「大國主命」を隠し祀る神社ではないか(天満神/天神様の名の下、開化天皇が消されている? 隠されている?) ということであつたが、改めて、それはどういうことか? そして、何故、そうなつてくるのかである? その続きを記そう。

要は、例えば「太宰府天満宮」は、「道真」と縁の深い神社であるが、そこには前史があり、元来は九州倭(わ) / (い) 国政権直属の神社であり、始原の神とされた「天御中主(北極星?)」ら、天神(あまの) / 海神(うみのかみ) 族を祭つていたのではないかとということである!!

すなわち、道真を排斥した藤原氏が、度重なる災害を道真の怨霊のせいだと宣伝したのと(北野天満宮の創始、それに合わせて、何とかして九州倭国政権の残滓(ざんし)を消し去ろうとした政権が、都合の良い「祭神の入れ替え」を行ったのではないかとということである!!

◎そんな「祭神の入れ替え」というような大それたことがあつたのだとは、現代の我々からすれば、とても信じられないことなのだが、どうも、そういうことは、しばしば行われてきたようなのである(その最大のものが、かの伊勢神宮/内宮の祭神である?)!!

ちなみに、菅原(菅公)家は、血統的には、例の「出雲の国譲り」において「先遣隊」の役割を担つたとされる「天穗日(あめのほひ)命」(出雲大社宮司・出雲臣氏↓千家家の祖神)を祖とし(土師氏も?)、一方でまた、「倭奴(那)国」の王(AD577年に後漢から金印を貰つた?)であつたとされる「大幡主(武埴安彦・饗族?) / 櫛田神社の主神」の一統ともされるのである!! そして、前者は、いわゆる「尾張氏」の一派ともされている!!

出雲と北部九州、そして、大和や丹波/伊勢/尾張や近江(もちろん紀伊、吉備も)の関係については、今後改めて整理していかなければならないが、大きな枠組みとしては、出雲と北部九州の関係が、まずは大きく横たわつていて!! そして、その出雲と北部九州の関係が、かの「老松神社」に被せられている!! それが、「開花天皇(大國主命?)」の頃の状況であり、当時(4世紀頃?)の九州倭国政権の実体であつたということである!!

具体的には、二世紀末の「倭国大乱」、それに伴う「那(奴)国勢力(王族?)の衰退・各地への飛散?」、伊都国と邪馬台国(使用字や読み方には異同もあるが!) による「新?倭国(邪馬台国連合)親魏倭王(卑弥呼)」の登場、その後の「台与」(これも、使用字や読み方には異同もあるが!)への継承、そして、それ以降、歴史の闇?に消えていった「新?倭国」(空白の4世紀)!! しかも、そこには、「紀(木)姫氏」「熊襲(球磨曾於)族」の関わりがある!!

実は、その辺りのことが、この「老松神社」から見えてくるのではないかとということであるが、今後は、その「闇?」に関わる、神功皇后/武内宿禰/応神天皇等に仮託されている史実?を、いかに解明していくかである!! そして、それらは、当然、朝鮮半島との関係も視野に入ってくる!! (つづく)

〔編集後記〕 何とか、今回も作成し終えたが、やはり井上と堂本の役割分担?は難しい!! ある意味、それは当然のことではあるので、それを乗りながらやつていくしかない! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 3 号

発行日

2023. 5. 15

編集・発行

井上講四/堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○かの「広島」を、いかに総括すべきか?!

私が、広島大学の出身であることは、知る人ぞ知るところである！だが、今の私には（それまでの私はさらに）、そのことを、声を大にして言えない（言いたくない）!! せいぜい「わだかまりみたいなものがあることを、ここでは告げおきたい。その理由については、当然ここでは書き切れないが、言うならば、そこは、「ほろ苦い」後期青春の舞台」であったということである（ただし、それがあつたからこそ、その後の、そして、今の私があることは事実であるが）!!

ところで、その広島に、例の古希同期会の仲間が、高校時代の修学旅行の思い出から、再度訪れたいと、旅のプランを練っている！私としては、その仲間達との付き合いは、大変有難いと思つてはいるが（感謝もしている）、いざ行くとなると、複雑な思いに駆られるのである！ちなみに、皮肉な？話ではあるが、私自身は、その広島への修学旅行には行っていない（野球部に所属していた私は、春の大会前でもあり、自由参加でもあつたので、行っていない）。

とは言え、修学旅行の思い出は、確かに貴重なものであり、この年になっては、さらにその想いは募る（今思えば、残念であつた？）!! しかし、一緒に行きたいが、私の思い出は、別なところで屈折する!! しかも、個人的には、数年前に、その最後の訪広？は済んでいる！一応のケリ？はつけているのである！だから、今更、広島なんて...!!

ただ、こんな思いは、かの仲間達には伝えてはいないし、伝えようとしても、それは土台無理でもあろう（彼らにとつては、ある意味迷惑な話ともなる）!! 困つたものではある!! まだまだ総括の時ではない？そういうことなのか?!

○振り返つてみると、私の人生は、何がおいしい?!

ところで、よくよく考えてみると、私の人生は、何がおいしい?ふと気がつけば、私の居場所、と言うか立ち位置が、中心から離れていってしまった!! 言い換えれば、グループや所属している組織の周辺に行ってしまった!! いる自分がいるのである!! 学芸でも、県や市町村との関係も、そうであつたように思う!! もちろん、最後の琉球大学でもそうであつた（これは、学部長をやつたからでもあるが）!!

そして、さらに振り返つてみると、学生時代（学部も大学院も）もそうであつたし、以前の、東京の職場でもそうであつたように思う!! いつの間にか、周辺人? になつてしまふ私!! やはり、これはおかしい? 私の生き方（生き様が、いつの間にか、どこかで狂つてしまふ? その時、その時を精一杯生き、自分なりに必要だと思ふことを言い、そして、動いてきた（しかも、最初は喜ばれもした）!! しかし、途中から?、野党? 否、その野党にもなつていない自分があるのである!!

だが、冷静に捉えれば、実は私の方は全然変わつていなくて、周りが変わつていつているのかもしれない!! そんな気がしないでもない!! 極論すれば、私の方が、時代の流れ・周囲の状況に沿つて、臨機応変に（上手に?）変わつていつていないのかもしれない!! 無意識の内に、自ら、そうしてきたのかもしれない!!

いずれにしても、私の人生、何がそうさせてきたのか? それか、かの守護（背後）霊のせいだとしたら、今更、何か況やである!! そう思うしかない（笑）!!

○研究室が我家（のベランダ）になつただけ?!

話は変わるが、8年前、大学の職を辞し、公務員宿舎を出なければいけない私（達）であるが、沖縄を離れる話もなく（どこからの誘いもなく? 本当は、そういう話があつたならば、動いていたかもしれない?）、さしあつては、住む家を探さなければいけなかつた! もちろん家を買うとか、そういうことは考えていなくて、当座は賃貸のアパートか、マンションをということ、あちこち探したのであるが（本当に探して歩いた! 1年以上かな?）、結局は見つけられずにいた。

金額とか立地とかということもあつたが、一番の理由は、私の我儘? であつたのかもしれないが、誰もが気軽に訪ねて来られる場所が欲しかつたのである! そのことを、借りる条件の一つにしていたのであるが、仲介の不動産屋にそのことを話すと、かなり難しいというようなことでもあつた（隣人とのトラブルの危惧? 大家さんの意向?）! 要は、大学の研究室のように、誰もが、気軽に出入りできるような場所を確保しなかつたのである（研究室は、ゼミ生は当然であるが、他の学生、はたまた大人の人の出入りも頻繁にあつた! 否、それを、私は望んでいたのである）。

しかし、事態は、ある時一変した! 私の奥さんが、多分? 業を煮やしてのことだろうか? 軒家の売り物件を、ネット上で見つけたのである! 借りるといふことしか頭になかつた私であるので、かなり動揺? したが（一度にかなりの出費覚悟? 肝っ玉が小さい?）、その物件を見にいき、即決で決めたのである（もちろん、先に決断したのは奥さんである! その決断力は、見事であつた!）。

それが、現在住んでいる、宜野湾市大謝名の、この家なのであるが、何はともあれ、このベランダからの眺望が気に入つたのである（北向きではあるが、そこからの、東シナ海の眺めは格別であつた!）。もちろん賃貸ではないので、誰にも気兼ねする必要はない! 自由に人が呼べる、来てもらえる（駐車場も狭いがある）! 爾来、この眺望に何度も癒された（台風時は困つたが!）そして飛行機の騒音も!。そして、人も来てくれた! この家と眺望がなかつたなら、本当に私は困つたであらう! されど、ここ数年、コロナが水を差している!! 果たして、この先は...（井上）

○最後の？伊江島行！蘇る数々の思い出！

ゴールデンウィーク前の4月末、一泊二日の日程で、もう訪ねることもないだろうと思っていた、北部離島の一つ伊江島に、我が奥さんと二人で出かけた。直接の目的は、まだ一回も見えていない、同島の「ユリ(まつり)」を見に行くことであった。天気は、あいにくあまり良くなかったが、島の北海岸にしつらえられた、広範囲のユリ畑には、鉄砲百合をはじめ、色とりどりの花が植えられていた(まだ一面の開花とは言えなかったが！)

会場は、GW前のウィークデーでもあったので、人出は少なかったが、テント張りの出店や趣向を凝らした写真コーナー等があり、ピークの時、かなりの賑わいになるだろうと思いつつ、奥さんとの、久しぶりのデート？を楽しんだ次第である！！

ところで、実は、この伊江島(村)は、現役時代には、学生達と何度も訪ねて、島(村教委)のみなさんには、その都度大変お世話になったところである！ゼミ合宿や出張研究会、さらには学部行事(ユークロ)、そして、何年間かは、社会教育実習生の受け入れと…しかも、そこには、数々のドラマ？もあつた！思い出せば、それこそきりがなが、今回も、宿を世話してくれたり、一日車を貸してくれたりと、いたれり、つくせりであつた！

当時お世話になつたNさんやUさんが、それぞれ村長、副村長、そして、Sさん(当時の社会教育主事)が福祉課長と、それぞれ島(村)のキーパーソンとなつており、また、当時学生であつたY君が、縁あつて同村役場職員となり(結婚もそこ！)、今回は、彼が、歓迎会まで仕切つてくれた。そして、翌日には、沢山の土産を買いこんで、港まで見送りにきてくれた。本当に感謝・感激であつた！人(伊江島)の情けは、不滅である！！

最後に、もうつべんまでは登れないと思つていた(現に、前回は断念していた！)、かの「たっちゅう」(塔頭)に登れた！これが、今回の、もう一つの喜びでもある！

〈短歌に託して懐かしき、あの街、あの島！〉
・あゝ広島や 広島や

我が後期青春の 花舞台 いかによつ(断つ)？

・どこかで狂う 私の人生？

何がそうさせるのか？ そも守護霊のせい！！

・研究室が ベランダに 替つただけ！！

されどコロナが 水を差す！

・塔頭に 登れて嬉し 伊江島行

ユリの香りと 人の情けも

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑤

○隠されている？「木(紀)姫」氏の存在

さて、改めて、その「老松」であるが、実は、「松」は、「木」偏に「公」！すなわち、「木の公(きのみ)」と読める！！だから、木(紀)姫氏を示す(しかも「老」？が被さっている)！！その指摘を見た時は、最初は偶然、否、言葉遊びかと思つたが、ひよつとしたら、それも有り得る？？思つたわけである(没落しかけて「木の公」)！！

と言うのも、紀(伊)氏は、もちろん現在の和歌山県を本拠地とした？古代豪族ではあるが、その出発地(直前のそれ)は、北西部九州の「基肆(きし)」(百済紀にある)地方と考えられ、かの「貴国」は、そこにあつた！！ちなみに、その貴国は、半島諸国には、当初知られておらず(途中から出現していた？)、新たな国(勢力)であつた(そう考えれば、さらに辻褄が合うのである)！！

しかるに、その「木/紀氏」であるが、問題は、それ以前はどこにいたのか？そして、本来の、その出自は？その解明が、新たな頭痛の種ともなつてくるのである！！何故なら、その「木/紀氏」は、そもそも「武内宿禰系」諸

族(半島系渡来民族/伽耶・新羅系)の一つと考えられるからである(半島南端部の前方後円墳の存在は、その証左でもある)！！

ところが、最近知つた情報(新説)によれば、彼らは、中国江南にあつた「呉国」(三國時代の「呉」ではない)の王族の末裔で、BC5世紀頃に九州中部(肥後菊池郡山門)に漂着していた「姫氏」であるといふのである。そして、その後、彼らは、同じ江南出身の、いわゆる「熊襲(球磨負)族」と合体して、中南部九州から攻め上がり、北部九州までをも席卷していた(地下式横穴墓、装飾古墳の分布)！！

そして、その子孫が、3世紀末の「邪馬壹(台) 国女王卑弥呼」や5世紀の「倭の五王」(讚・珍・濟・興・武)達であつた！！そしてまた、かの武内宿禰は、その「熊襲族の棟梁(弥五郎どん)？」でもあつたといふのである！！実際、「木/紀氏」と熊襲族は、ある時期合体したとみえ、途中から、『紀』に記す「厚鹿文(あつゑ)」「近鹿文(ちか)」など、熊襲族の首長とされる名が連ねられているという(「姫氏・松野連氏系図」より)。

しかもまた、その紀(木)姫氏が移動・進出していた？北西部九州には、鴨氏(これも熊襲族？先の菊池市には、賀茂川や加茂神社がある)！、日下部(か)氏や内(ち)氏(武内宿禰の直系)！、天(あま)族の久米氏らが進出していたことをうかがわせる地名や川の名も多くあるといふ(しかも、隼人もいる)！！果たして、これらが、記紀に言う「熊襲」なのであるか！！あまりにも複雑である！！

ということ、このように、通説では、熊襲とか隼人とかという中南部九州の部族は、いわゆる蛮族(「隼人」の場合は、若干扱いが違つが)とされ、大和朝廷や九州王朝とは、一線を画すものと思わされていたのであるが、紀(木)姫氏と同一化している、そして、その紀(木)姫氏が、「倭の五王」や「武内宿禰」とも関係がある！！であれば、これまでの認識を大幅に変えなければいけなくなるのである！！ただし、頭痛の種は、これだけではないのである！！(つづく)

〈編集後記〉今回もまた、様々なことを書いたが、やはりスペースが足りない！！しかし、多くしても大変である！！しばらく(当分)はこれでいくしかないだろう！！

(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 4 号

発行日
2023.5.30
編集・発行
井上講四/堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○何でなのだ！思わぬ悲？報に驚かされる！

過日のゴールデンウィークに、最後のゼミ卒業生であったT君とO君が、久しぶりに我が家（岳陽舎）を訪ねてきてくれた。昨年の、私の誕生日には（確かそうだったように記憶しているが？）、私の「古希」ということで、仲間達と一緒に集まってきてくれたが、相変わらずのコロナ過もあって、その後は、みんなの足も止まっていた！

そんな中の訪問であったが、彼らの生活状況も変わって、一人は、家族と共に離島へ（久米島）、一人は逆で、離島（伊平屋島）からの戻り（昨年だったかもしれない？）というところで、新たな生活を始めているということであった！さて、ここで言う悲？報とは、他でもない！彼らの先輩でもあるF君が、この3月に、学校を辞めたということであった！せつかく苦労して（2度目の受験で合格）手に入れた、小学校教諭のポジションであったのに、しかも、初任研は終わったはずなのに？何で辞めたのであろうか？聞くところによると、（学校が？）、イメージにそぐわなかったというところらしいが、そんなことで（誤解を招く言い方かもしれないが）、彼が辞めるとは思えないのである！！

と言つもの、彼は、最初は教員ではなく、民間で働くことを選び、それを踏まえて教職につくという計画の下に、3年前に、その念願を果たしていた若者である！仕事の厳しさ（人間関係も含めて！）や学校現場の窮状も、一応社会人として分かっていたはずである！それが、何故…？！
本当に、不可思議でならないが、こちらから連絡するのにも憚られる（迷惑？）ので、一応待つてはいるが、多分音沙汰はないかもしれない！悲しいと共に、悔しくもある！！

○久しぶりの、孫との対面！蘇った？じいじい心！！

これも、先のGWに、宮崎県にいる長女（小学校教諭が、三男（小3）を連れて里帰り？してくれた。まだまだコロナが気になる場所であったが、ここ数年、帰沖出来なかつたこともあり、思い切つての決断であった！家に、二人の息子（双子の中3生）と旦那（同じく小学校教諭）を置いての旅でもあったわけであるが、少しは、日常の忙しさから解放されたであろうか（持病の片頭痛や鼻炎に、少し悩まされていたようではあるが！）？

あいにく天気の方は今一つであったが（ほとんどが曇り）、母親（我が奥さん）のお陰で、家事もほとんどせず、そして、何よりも仕事のことを忘れて、三男と一緒に、楽しく遊び、時を過ごせたのが良かったのではないか（心の中では気にかかっていたかもしれないが！）！それはともかく、私にとつては、久しぶりの、孫とのご対面であったし（偶に、ズームで顔は見ていたが！）、自分でも不思議なくらいに、「じいじい心」が蘇ったようにも思えた！！双子の兄達とは6歳の違いがあり、今が可愛い？盛りなのかもしれないが、もうすっかり忘れていた（埃をかぶっていた？）、「箱入り娘」というパズルでは、二人夢中になり、仲良く遊べた！

ここで書き（残し）たいことは、沢山あるが、一つだけ挙げれば、その三男の横顔や後ろ姿、そして、何より、その仕草が、兄達（とりわけ長男？）にそっくりであったことである！兄弟なので、似ているのは当然かもしれないが（ちなみに、正面顔は似ていない）、あの頃の思い出も、そこには重なっていたのかもしれない！！

○やはり、「このことは書いておかなければいけない！！」

改めて、今（ここで）、このことを書くのは、正直言つてかなり憚れるが（その後の経緯からすれば、同じ辛い闘病？でも、私の場合は軽微で？、他人に告げるには、どこか恥ずかしくもあり、申し訳なくも思う？）いわゆる手術や抗○○剤治療がなかったということである！、一応は、自分史の一環として、ここで書き記しておく必要はあるであろう！！とにかく、それが、私の、その後の10年間余りの現役生活、とりわけ大学での仕事振りに、大いに関わっていることは、まさに事実だからである！

ということでは、その病魔についてと言うよりは（これについては、いつかまた書き記す時もある）、宣告を受けた直後の行動、それ以降の意識のあり様を、自らの備忘録として、ここに書き残して置きたい？そういうことである！！

思い返せば、本当に突然であった！ある年の人間ドックにおいて、結果を知らせる予期せぬ電話が入り、その病魔のことを知らされたわけであるが（後から分かったが、かなり進行していて、命の心配もあった）、これには、本当に狼狽した！直後の大学での授業では、訳の分からないことを口走つてもいたらしい！！

その後、御多分に漏れず、「何故自分が？」という思いに苛まれ、眠っている時以外は、「自分は ○○患者なのだ！」という意識が頭から離れず、かなりの期間、重く、憂鬱な日々を送っていた（周囲には、事あるごとに、同情を買おうともしていった）！しかし、今は、その○○患者だという意識は、不遜にも？まったくなく、新たに付き合うことになった糖尿病に、それなりに悩まされてはいるが（年に4回の血液検査で一喜一憂している）、こんな悠長な？思い出話をしている次第でもある！

ともかく、これについては、家族をはじめ（とりわけ我が奥さんには、本当に世話になった）、多くのみなさんに心配ごと迷惑をかけた！ただ、思うに、初めて検査依頼をしたチェック項目で（その年からの、追加オプションであった）、幸いにも見つかったというところは、その意味では、これもまた、かの守護（我背後）霊のおかげであったと言えるのかもしれない（本当に、もう少し遅かったら、それこそ、今の私はなかったであろう？）！！（井上）

○そこにあるのは哀愁？それとも挽歌？！

改めて、目の前にいた（と思っていた？）貴重な若者達の戦線離脱！先のF君もそうであるが、T青少年の家の、若い（と言っても30過ぎの！）職員（K君/N君）も、その場を去っている！やはり、そこが、自分の居場所（活躍の場？）ではなかったということであろうか？！

しかし、それは、当該の世界（分野）での貢献（やりがい）に向かっていた（はずの？）自分を、ある意味放棄することでもある（だから戦線離脱？）！それが、たとえかの「自分探し」の一環であったとしても、誠にもったいなく（数も少ないので！）、I氏の驚愕、否、落胆ぶりは、おそろしく、そこにあつたということである？！

もちろん、自らのより良い人生を求めてのそれであれば、私（達）のような、一線を退いた者（否、赤の他人？）が、とやかく言うことではないし、そもそもそのような権利もない（余計なお世話？）！ただ、振り返れば、これまでも、そうした若者達の離脱？はあつた！だから、I氏にとつては、とても残念であり、複雑なのでもある！

途中からゼミを離れた者、挙句の果てには、大学（院）まで辞めてしまった者、あるいは、卒業後はまったく音沙汰のない者！それはそれで仕方がないのであるが（それが当然？）、とにかく、I氏は、心のどこかで、彼らに對しては、自分は何の役にも立てなかつた？！そう思ってきたのである（だから、悔しくも、悲しいのである！）！

ということ、今回も、I氏は、彼らの、本当の理解者・相談者にはなれなかつた（青少年の家では「相談役」を名乗っているにも拘らず！）！そういうことでもある？！
ただし、ひよつとしたら、相談したくても、ことがこただけに、それが出来なかつた？！若者達との出会いやつき合いに、自らのやりがい（使命？）を投じてきた（と思つている？）I氏に對して、一方の彼らは、彼らなりの分別（苦しみ？）をもって、己の身を処したのかもしれない？！そこに、哀愁？いや挽歌が流れているとも言える？！

〈短歌に託して生きていけばこそ、様々な思い〉

・何故に辞める！そしてせめて その前に

何故に訪ねぬ！それが悲し（悔し）

・忘れていた？ じーじい心情

されど末の孫が 思い出させてくれた！

・すっかり忘れし あの頃のこと

が、病魔は 別の形で 我を悩ます？

・今なら分かる？ 思いとは裏腹に

それが故の苦しみが あることが！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕④

もう一つの頭痛の種？「鴨氏（族）」も熊襲なのか？

前号最後で、頭痛の種がもう一つ出てきた？と書いたが、実は、それは、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」のことである！彼らが、（記紀に言）大和建国（3世紀後半）に、直接関わっていることは分かっているが（神武一行を無事に大和に先導した八咫鳥（タカ）こと「建角身（たけつのみ）命」は、鴨族の統領とされる？）、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」は、大和（葛城）はもちろんであるが、吉備、出雲、筑紫をはじめ、全国至るところに、その名を見させているのである！
そして、かの京都には、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が関わる「下鴨神社」「上賀茂神社」もある！前者は、「加茂御祖（みお）神社」とも呼ばれ、建角身命が、娘「玉依姫」と一緒に祭神となつている神社であるが、その「建角身命」は、何と「襲（曾於）」の国の出身であると書いてあるものもあるのである（山城国風土記（逸文）。ちなみに、後者は、「玉依姫」の子「加茂別雷（かものいかづち）神」が祭神とされている（これは、おそらく「秦氏」との関係による？！）！
いずれにしても、このように、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」

〔族〕は、重要ではあるが、その解明には、果てしない混迷が待ち受けているのである？！つまり、もしそうであれば、かの、神武による東征（大和建国）が、「熊襲」によるものともなる？！しかも、その「熊襲」は、北部九州の動向とも関係がある？！

しかるに、私は、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」の「武角身命（八咫鳥）」自体が、「神武」のモデル（タミー？）なのではないかと密かに思っていたのであるが、彼らが、改めて、その「熊襲」だということになれば、古代史の解明は、かなり根底から見直されなければならない？！そういうことにもなるのである？！

ということ、改めて、「木（紀ノ姫）氏」や「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」、彼らは、何者なのだ？！そして、ある意味、「木（紀ノ姫）氏」が九州王朝に関わり、他方の「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が大和建国に関わっている？！一体、これは、どういうことになるのだ？！私の頭の中は、こんがらがらるばかりなのである？！

ちなみに、その、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が関わる？「神武東征」であるが、その痕跡は、かの大和・葛城に大いに残されている！いわゆる葛城山麓（現現在の御所市周辺）の地名や神社名がそうである（高鴨・葛木御歳・鴨都波神社等。阿治須岐高日子根命／迦毛大御神・葛城鴨族・事代主勢力？）。間違ひなく、この地域は、一方の三輪山山麓の諸族（三輪／大神（おみ）氏／大物主？／崇神勢力？）と共に、絶対に、大和建国に関わっている？！

また、吉備の加茂地区（例の「榎築（えのき）遺跡」の近く！）には、藤井耕一郎氏が明らかにされている『タケミカツチの正体』河出書房新社、前方後方墳／手焙形土器（火の祭祀用？）勢力の出発地と目される「加茂西遺跡」現初期の手焙形土器がそこで発見されている！がある！であれば、「吉備」を経由したという「神武一行」は、その鴨（賀茂／加茂）氏（族）のものではないのか？！興味（疑問）の連鎖は尽きないが、これから先は、また次号にて！（つづく）
※先号で、…3世紀末の「邪馬壹（台）国女王卑弥呼」…と書いたが、…

2世紀末…の間違いである！…了解を願いたい。（堂本）
〔編集後記〕今回もまた、いろんなことを書いてはみたが、やはり気になるのは、若者達のことである？！可能な限り？！人生を健気に生きて欲しい！ただ、それだけである！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 5 号

発行日 2023.6.15
編集・発行 井上講四/堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○「岳陽」は、意外な形で顔を見せるかも!!

相変わらず、月日が経つのは早いもので、今年も、既に6月の半ば、そして、新年度が始まって、2か月半が過ぎた!ただ、少々湿っぽい?話とはなるが、新年を迎えても、あるいは新年度を迎えても、私の日常には、ほとんど変化がない!現役を退いているわけであるから、当然と言えば当然なのであるが、やはり、何らかの刺激(チャレンジ対象?)が欲しい!そう思う(願う?)度合いが深まっている(梅雨だからか?)!!そんなことを思いながらの、標記の見出し設定であるが、単なる妄想的期待ではない!!

と言うのも、私が求める「教育協働」の意義、言い換えれば、その必然性(自然の摂理?)は、まだまだ、学校教育、社会教育、どちらの関係者にも、それほど実感はされてはいないようではあるが、結果的には、徐々に、その姿を顕現させてきている!!すなわち、個々の取り組みに(地域によって、実施主体の違いによって、その表面的な態様は違うが?)、その実質的な形が、徐々に、否、確実に、その姿を見せ始めている!!そう、「岳陽」は、既に顔を見せ始めているのである!!

ただし、そういう動きに、今の私は、直接的には何も関わっていない!!それが、何とも歯痒い(悔しい?)というところであるが、とは言え、それは、ある意味普遍的な動きであることは間違いないわけであるので、近いうちに、私が関わっている、あるいは直接見聞きしている取り組みにも、それが見えてくるであろう!だから、「岳陽」は、意外な形で顔を見せるといふことである!!

○久し振りの霧島!旅の目的は、いずこに?!

さて、時ならぬ台風の襲来ではあったが、過日、久しぶりに(3年振り)、宮崎(小林市)に住む長女一家を訪ねた!主たる目的は、早中学3年生となっている、二人の孫(双子)のクラブサッカーでの雄姿?(残念ながら?レギュラーではない!)を見に行くことであつたが、私には、もう一つ、別な目的もあつた!それは、最近知った、旧日向地域?に散在する、「地下式横穴墓」(これは、何故かその地域だけのもの!「熊襲」と関係か?)の見学である!

一応、どちらの目的も、それなりに果たしたが(サッカーの方は、あいにくの雨で、しかも練習試合であり、あまり盛り上がりなかつたが、遅くもなつていた孫達の雄姿は、それなりに見ることはできた!)、ここで書き記しておきたいことは、そのお陰で、再び訪れることができた、懐かしき霧島温泉郷(そして、えびの高原も!)のことである!!

と言うのも、折角、宮崎(小林)に行くわけであるので(理由は鹿児島港)、一泊は、途中の霧島温泉でしたいというところで、同行の奥さんと(ついでに書く)旅の手配は、すべて彼女である!、当地を訪れたわけであるが、新たに泊まったその宿(溪谷の傍?)は、これまで利用した宿とは、いささか趣が違い、もう一度、是非訪れたいと思わせるものであつた(詳しくは、ここでは書けない!)!

なお、古墳の方は、3カ所回つたが、一カ所は、その所在が分からず、結局は、2カ所の訪問となつた!予想はしていたので、特に問題もなかつたが(現地に行つて、どういふ場所に、どういふ形で、それが残っているのか?が分かればよいということ)、果たして熊襲の墓かどうか?!

○何故、私は、「普通の上等」と言いたかつたのか?!

ところで、今更、こんなことを書いても(思い出しても?)仕方がないが、私は、現職の頃、心許せる学生達(特に大学院生)に、「君達は)サブレッドにならなくてもいい!駄馬でいい!しかし、上等の駄馬になれ!」そう言っていた!

ちなみに、この物言いは、ある時期の、沖縄独自のCM(どこかの「泡盛」の宣伝)をパクったものであるが、何故か、その「普通の上等」という言い方が気に入り、個人的には、好んで使っていたわけである!軽いタッチではあるが(出演しているキャラクターの風貌も含めて)、どこか息苦しくて、やり場のない?沖縄の現実を、ある種のペースとウィットで、優しく包み込んでいるようにも思えたことを、今でも覚えている!!

もちろん、彼らが、その物言いをどう受け止めていたのかは、よく分からないが、私の本意としては、「君達が、今学んでいるR大学は、沖縄ではそうかもしれないが、決して一流大学ではない!それに、冷静に気づけ!しかし、だからと言って、卑屈になるな!要は、その部分での生き方(貢献)があるのだ!そして、実は、その部分の底上げが、ここ沖縄では必要なのだ!そこを自覚せよ!」そういうことを言いたかつたように思う!!

今思えば、沖縄(R大学)に対して、あるいはある意味優秀な沖縄の若者に対して、かなり失礼な物言いだつたのではないかとと思うが、それは、ある種の意地を示したのかもしれない!!そして、ある面では、それは、私自身に向けての物言いだつたのかもしれない!!本土(の人間)と同じように頑張っているのに、その力/実績がほとんど評価されない(尺度的には?)、そのような指標/結果が出ているわけだから、そう見られても仕方がないが!!しかし、そう言つても、苦難の歴史においては、そういうことは、ある意味当然ではあろう?ただ、私が、今改めて意識したのは、その「ある意味当然」を引きずるな!その「ある意味当然」が、いつのまにか、自らの弱さの言い訳となっているのではないか?だから、そんな評価とはおさらばして、自らの生き方を、信じるままにすればよい!!それは、決して手を抜いて生きることではない!それが、まさしく「普通の上等」なのだ! (井上)

○知らなくてもよかった？出来なくてもよかった？
だが、それさえも、惑わされる時代!!

今、ここでは是非とも書かなければいけないわけではないが、一度は、このことは書きたいとは思っていたことなので(しかし、多くの人にとっては、今更そんなことをと思われれるかもしれないが)、私堂本が、標記の見出しをつけて進めてみようと思う。

要は、最近のテレビやネット情報で、生命の不思議、科学技術の進歩、古代の真相、宇宙の謎、国内や世界の動き等、あらゆる分野で、本当に様々なことが、しかも矢継ぎ早に知らされるわけであるが、ある意味？知らなくともよかった？出来なくともよかった？ものに惑わされる自分(現代人)がいるということである(ただし、これは、一重に、若いゆく人間の宿命でもあるが!!)！

ここでは、そうしたことのひとつひとつを取り上げるつもりはないが(そもそも無理である)、限りある一人ひとりの人生の中で、それらの情報や知識あるいは技術が、本当に必要なのか？そして、そもそもそれらが、その一人ひとりの人生を、豊か(幸せ)にするのかどうか!!

もちろん、これらの自問(愚問？正解は、既に明らかとなっている)は、どの時代にあつても、心ある誰かが(哲学者はともかく)、いわゆる文明批判として出してきたわけであるが、最近(とは言っても、相対的なもの)、その範疇を遥かに越えているように思う!!実は、そのことを、ここでは書いておきたいのである!!

と言うのも、こうした文明の進化・進歩は、いつの日か、絶対に終わりを迎えることも、残念ながら、今の我々は知ってしまったというところである(太陽系/銀河系/宇宙の終焉?)！つまり、少なくとも、このことだけは知りたくなかったが、それもまた、現在の「知の一つ」となっている！考えてみれば、恐ろしい事態である!!しかも、そんな中で、醜い我欲、領土欲をむき出しにしている人間(国)がいる！どうしたものか!!

〈短歌に託して梅雨の間に間にも、様々な思い〉

・複雑だが ひよつとしたら 岳陽が
意外な形で 顔を出すかも？

・時ならぬ 台風の襲来
めげずに訪れた 霧島・宮崎 古墳は？

・サラブレッドと誤解して 挫けるよりも
上等の駄馬として 強く生き抜け!

・知らなくても 出来なくとも よかったものに
惑わされる？ だがそんな時代も!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑤

○改めて、「熊襲」／「紀・姫氏」とは？

さてさて、その怪しげな「熊襲」に関わっては、先に紹介したように、「姫氏・松野連系図」というものがあるが、何とあの邪馬台国の卑弥呼や台与、そして、「熊襲」(川上梟帥)／取石鹿文(等)、さらには、その後の「倭の五王」(讀・珍・済・興・武)等まで示されているという！ちなみに、同系図は、江戸末期から明治期にかけての系譜研究家(国学者)である「鈴木真年」という人が、各地の氏族系譜史料を収集し、それらを、メモ風に調査・修録したもの(『諸系譜』)の一つであるということである(『中興系図』? 国立国会図書館と静嘉堂文庫に所蔵とある)。だから、まったく出鱈目な、いわゆる「偽書」ではないということでもある!!

それはともかく、それによると、件の「松野連氏」は「吳王夫差」の後裔で(このことは、平安期の『新撰姓氏録』にも書いてあるということである)、

子・忌が日本に渡って帰化人となり、筑紫国に至って、肥後国菊池郡に住み、さらにその子孫・松野連が、筑紫国夜須郡松野に住して、姫姓から松野姓に変えたのが始まりとされているらしい。そして、北部九州には、同氏を祖とする氏族の家系が、複数存在するということなのである!!

と言うことは、この「松野連氏」が、まさに「姫↓木／紀氏」(の本流?)であり、現在追及中?の「老松」(三階松?)、すなわち「木の公きのみ」であったのではないか!!しかも、繰り返すように、この老松神社は、いわゆる欠史八代の最後「開化天皇(第九代)」を主祭神とする、謎?の神社ともされる!!そして、次の第10代が、新たな(真の?)「ハツクニシラスメラミコト」とされる「崇神天皇」である!!したがって、ここに何か隠されている!!そう思わざるを得なくなるのである!!

また、それに関わっては、当然?第8代の「孝元天皇」も、その謎に与している!!すなわち、開化天皇は、孝元天皇の第二皇子(母は、皇后で、鸞色雄／内色許男うしろしよ命・穗積臣遠祖※穗積臣氏は物部氏)と同祖)の妹の鸞色謎／内色許売うしろしよ命!同母兄弟には、大彦命・少彦男心命・倭迹迹(日百襲?)姫命、異母兄弟には、彦太忍信命・武埴安彦命がいる!

さらに、その孝元天皇は、孝靈天皇(第7代)の皇子(母は、皇后で磯城県または十市県主大目の娘。同母兄弟はいないが、異母兄弟に、倭迹迹日百襲姫命・彦五十狭芹彦命(吉備津彦命)・稚武彦命ら。穗積臣氏の祖の鸞色雄命の妹の鸞色謎命を皇后として、大彦命・稚日本根子彦大日尊(後の開化天皇)らを得た。

また伊香色謎命、埴安媛を妃にし、伊香色謎命との間には、葛城氏・蘇我氏の祖彦太忍信命を得た。埴安媛との間には、御間城天皇(崇神天皇)の代に反乱を起こした?武埴安彦命を得た。とんでもないことになった!この続きは次号で! (つづく) (堂本)
〈編集後記〉今回は、梅雨、そして、時ならぬ台風の襲来もあり、生活のリズムが少し狂ったように思うが、久しぶりに長女一家とも、当地(小林)で会うことができ、そして、何より素敵な温泉旅館(霧島)にも泊まることができ、非日常の良さを満喫出来た。やはり、いいものである!

(井上／堂本)

「岳陽」と共に

第 6 号

発行日
2023. 6. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○やはり、「沖縄」のことは、書いておかなければ!!

本日(25日)、沖縄は、梅雨明けとなった。今年、随分前から予報はされていたので、特段の喜びはないが、一応は、一つの季節の節目ではあるので、そして、何より、同じ暑さでも、明るい、抜けるような青空の下でのそれと、どんよりとした曇り空の下でのそれとは、やはり雲泥の差があるので、この違いは大きいと言わざるを得ない!!

ところで、この沖縄の梅雨明けは、かの「慰霊の日」(23日)の頃だという記憶(感覚)があるが、多分に漏れず、今年もそうであったということになる。しかるに、この「慰霊の日」は、78年前の、あの悲惨な沖縄戦のことを、改めて思い出させる日であるが、正直言って、最近の私は、その日のイベント等については、心苦しいが、ほとんど関心がない(一応は、「県民」であるにも拘らず)!!

その理由については、ここでは、多くを語ることは避けるが(多分これからも)、滞在33年という歳月の中で、もろ手を挙げて、それに賛同、参画したくないという思いが、一方で、頭を擡げてきたということかもしれない!!来沖当初は、あれほど、この沖縄で仕事をさせてもらおうわけもあるのだ、沖縄のこと、沖縄の人達のことを分からなければと思ひ、その理解・協力を努めてきた私であるが、今は、その努力を、ほとんどしてないということである!!

要は、今までの私は、ここで生きている人達と同じ思いで生きていると思っていた、言わば、ふりだけの沖縄人?であったわけであるが、やはりそれは無理であり、まやかしてもあったということである!!そう思うと、何故か、ほつとして生きている自分もいる!!

○一つの様式でまとめることが難しい?我が経歴!!

ところで、この度、ひよんなことから(今は、具体的なことは言えない)、自らの経歴(功績?)を書き記す機会があった!学歴や職歴に関する期間や日付等は、それなりに書けるのであるが(ただし、煩雑?)、その他の、学外での委員活動や講義・講演等のそれが、何とも覚束ないのである!

この歳になつては、そうした情報(記憶?)は不要であり、委嘱状等も、すべて処分しているわけであるので、今更、その再生?は不可能なのであるが、それにしても、今回改めて思ったことは、自らの経歴の複雑さ、多様さ?である!だから、指定された書き込み様式では、私の経歴(功績?)は、到底書き記すことが出来ないというところである(喜ぶべきか?悲しむべきか?)!

ということで、現在、可能な限りのバックアップ作業を行っているわけであるが、経歴が、何の功績となるのかは、私自身が決めることではないが、自分自身の経歴や功績?を、他者の尺度や記載様式で書き記すことに違和感はあるものの(癪でもある)、最後までいいは?、それに沿ってまとめておくことも、それなりに意味はあるであろう!!そう思つての、作業という次第である!

ちなみに、自分が著した本や論文については、大半は所有しているが、記念すべき?一つの単著(単行本)が、何故か?無くなつてることが判明し、奥さんの協力で、アマゾンから入手していることは、別な意味で、複雑な過去となつている(これだけは、実に情けない話!笑)やはり、本質は、いい加減な私なのかもしれない!!

○我が気力喪失?に、優しき手助け!!

さて、これもまた、一種の旅の報告とはなるが、今回は、少し趣の異なつたものであつた!と言うのも、最早一線を完全に退いている私が、何故か?研究者の一人として、岡山県内の学校現場に、研究視察(CS関係)の一員として行かせてもらったのである!何とも気恥ずかしい思いであつたが、実は、これには、ある二人?の人間の思惑が絡んでいたようなのである!

詳しいからくり?は分からないが、最近の私の書き物が、どこか弱気で、ある種の気力喪失?を感じさせるものであるという判断をした(私自身は、そういうことは意識していないのだが?) S君とY君が(二人とも、現在は大学教授であるので、このような表現は大変失礼かもしれないが、私の一方的な親近感の発露として、このように書かせてもらおう!ちなみに、S君は、私の大学時代の教え子?でもある!)、今回の企みを思いついたようである!!

余計な話かもしれないが、この二人は、H大学大学院の先輩後輩の関係で、無二の親友であり、人間としても、研究者としても、良き理解者同士でもあるようである!!Y君とは、今回が2度目の出会いであるが、何ともユニークなキャラで、沖縄での最初の出会いで、私に、「〇〇ちゃん」と呼ばしめた御仁である!今回は、さらなる交流があり(ホテルも一緒)、彼の人間的魅力も、一層深く感じさせてもらった次第である!

本当は、その学校現場への訪問(Y小学校とK小学校。両校ともCSの実施校)のことを、きちんと書かなければと思つての記事作成であつたが、どうもそうならないようであるので、それに関して、別途?書き記すことにして、ここでは、人間の出会いの妙(Dさん、Fさん、O君並びに両校の関係者のみなさん)、そして、多分悩みや苦労?の連続の中で、健気に、そして、多くの人々のために日々奮闘されている、私の言う「心ある人間」として頑張つておられる人達の姿を、新たな喜びとして見させてもらったことを、ここでは記しておきたいと思う!

最後に、たまたま同県内にいる三女との出会いも実現し、今回の旅を、心優しく企画・提供してくれたS君には、感謝以上の何物でもないことを、改めて記しておきたい。(井上)

○なぜ日本の学校から「いじめ」がなくならないのか？
かなかなか変わらないその構造とは？

という「こと」からは、堂本の担当となるが、ここでは、今回もまた、件のネット記事から、有益な話題を拾ってみることにしたい。だが、今回は、少し複雑でもある（もう一つあった記事は辟易である）！だから、その辺りの微妙なニュアンスを、いかに出せるかでもあるが、その記事は、冒頭（最初の部分だけで申し訳ないが）、「たった2つの『シンプルかつ納得の理由』という小見出しで、以下のように綴ってあった！

「日本の学校は、あらゆる生活（人が生きるうえで）を曲いこんで学校のものにしてしまう。学校は水も漏らさぬ細かさで集団生活を押しつけて人間という素材から『生徒らしい生徒』をつくりだそうとする。学校で集団生活をしていると、まるで群れたバツが、別の色、体のかたちになって飛び回るように、生きている根本気分が変わる。何があたりまえであるかも変わる。逆に社会では名誉毀損、侮辱、暴行、傷害、脅迫、強要、軟禁監禁、軍隊のまねごととされるのが、学校ではあたりまえに通用する。センセイや学校組織が行う場合、それらは教育である。指導であるとして正当化される。正当化するのがちょっと苦しい場合は、『教育熱心』のあまりの『いきすぎた指導』として責任からのがれることができる。生徒が加害者の場合、犯罪であっても『いじめ』という名前をつけて教育の問題にする。こうして若い市民が兵隊のように『生徒らしく』なり、学習支援サービスを提供する営業所が『学校らしい』特別の場所になる。市民の社会では自由なことが、学校では許されないことが多い。社会でもあたりまえに許されないことが、学校ではあたりまえに許されるようになる。…」
言いたいことは分からないでもないが（同意するところも多々ある）、ただ、何故そうなってしまったのかを掘り下げられていない！結局は、指弾のための指弾となっている！そこが腹立たしくもあり、悔しくもある！！
要は、最早、ただ指弾するだけでは、誰も救われぬ！学校関係者だけを責めても始まらない！そうならならぬの方策は？そのためには、どこを、どうすればよいのか？そこを示せ！一方で、そう思うのでもある！

短歌に託して梅雨明けに想う、いくつかのこと

梅雨明けと慰霊の日

そこで交わる 沖繩の魂 何を求めし？

様式に 収まり切れぬ 我が来し方？
そんなものに 日付は無用？

我が氣力喪失？に、優しき手助け
まんまと嵌った 岡山の旅！

心せよ 指弾はもういい！
いかにして その改善を 図るかである！

特別コーナー「堂本彰夫の古代史旅枕⑥」
○「開花」と「崇神」に託された（隠された？）、古代氏族の攻防？！

さて、先号では、件の「老松（神社）」「三階松」が、「姫ノ木／紀氏」（の本流？）の「松野連氏」（「木の公」の）のものであり、そして、そこに、いわゆる欠史八代の最後とされる「開化天皇（第9代）」が関わっていることを示そうとしたが、結論としては、次の第10代が、新たな（真の？）「ハツクニシラスメラミコト」とされる「崇神天皇」であるわけであるので、そこにある関係（ある意味では断絶？）を、改めて精査する必要があるということを示そうとしているということである！！
ということ、まずは、彼ら（「開花」と「崇神」）が、どのような系譜でつながっているのかをみたかったのであるが、少なくとも、それは、第8代の「孝元天皇」、そして、第7代の「孝靈天皇」までは遡る必要があると思つてのことであった（ただし、本当は、第5代の「孝昭天皇」までも？何故なら、彼は、いわゆる「和珥（鰐）族」の祖？ひ

よつとしたら「大幡主（大若子命）」（櫛田神社の祭神として描かれている）！いざれにしても、そこには、多くの古代氏族が関わっているということである（「記紀」による創作・改竄も、当然？あったとは思われるが？）！！

そこで、注目されるのが、先号で示したように、「開化天皇」は、かの「物部氏（穗積臣氏）」と関係があったこと、そしてそこに、大彦命・少彦男心命・倭迹迹（且百襲？）姫命（同母兄弟）、さらには彦太忍信命・武埴安彦命（異母兄弟）等が絡んでいるということであった！

すなわち、孝靈天皇の子である、その父親孝元天皇は、母系で、大和とつながり、一方でまた、吉備との関係（異母兄弟）がある！！しかも、彼は、穗積臣氏の祖の鬍色雄命の妹の鬍色謎命を皇后として、大彦命・稚日本根子彦大日尊（後の開化天皇）らを得ている。また、伊香色謎命、埴安媛等を妃にし、前者との間には、葛城氏・蘇我氏の祖となる彦太忍信命、後者との間には、御間城天皇（崇神天皇）の代に反乱を起すことになる武埴安彦命（「大幡主（大若子命）」）を得ているということである。

ちなみに、いわゆる「欠史8代」であるが、実は、そこには重大な秘密（実際の権力争いの構図？）が埋め込まれており、特に、最後の第9代「開化天皇」に関わっては、まさに、福岡県の高良山周辺（ある時期の筑紫後国？）での権力争いの状況が伏されている？そして、それは、「姫ノ木／紀氏」（「松野連氏」／「木の公」）と、そこから生まれた（離脱していった？）「崇神」勢力（物部氏？）の関係を示すものではないか？！（つづく）
（堂本）

編集後記

今回も、様々な記事、思いを書き記してみた！また、古代史では、これ以上の深みはないというところまで来た！そこで、今後（？）のことは、改めて、未知の世界となるが、これからも、楽しく突き進んでいきたい（読者の困惑も顧みずに？）！！

末尾に、沖繩は、やはり蒼い海、青い空でなければ（台風は厄介だが）…「慰霊の日」はともかく、件の、私の沖繩への思いは、今後どのようなようになってゆくのか？それは、偏に、ここ沖繩で今を生きる人達との、真摯な交わりにかかっている！！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 7 号

発行日
2023. 7. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「岳陽チャンネル」、スタート!!

別途、HP上でアップしている「新・教育協働への道(1)」でも触れたように、今月8日(土)から、それまでの「教育協働セミナー」に替えて、新しく「岳陽チャンネル」という名の、Zoom交流プログラムを立ち上げた!「教育協働」のための人的交流、情報交流という目的は、もちろん変わらないわけであるが、それよりも何よりも、こちらで設定した日時(原則月1回、第3土曜日、10:30~12:00)では、メンバー登録している人の大半が、なかなか顔を出せない(他の用事・スケジュールがある?)というジレンマ(問題)があったということである!!

否、真相?は、もつと別なところにある(顔触れが固定している?テーマ/事例が、今の自分にとっては、さほど切実ではない?メリットがない?等々)、何らかのリニューアルを果たさなければ、このままじり貧となってしまう?まさに「マンネリ化」の危機?を迎えていたわけであるが、一方で、そういうことは、ある意味世の常でもあるので、もつこの辺で止めにしてもいいかなあ?と思いはじめたということでもある!!もつと突っ込んで言えば、他ならぬ私自身が、そのセミナーの開催意義を、あまり感じなくなっていたということでもある!!

とは言え、今回改めて分かったことは、そんな状況(關係)にあっても、それなりの人(少なくとも10人以上)が、交流や情報交換を続けたいと思っているということであり(義理も手伝って?)、やりようによっては、新たな可能性、やりがいも出てくるのではないかとということである!だから、頑張ろう(折角のアカウント所有でもある)!

○何故か、気になる?「さだまさし」の世界!!

ところで、今、こんなことを、ここで書くべきかどうかは悩ましいところであるが、一度は、彼のことを書きたいとは思っていたので、思い切って、ここで書くことにする!ただ、予め断っておくが、私が、彼の音楽作品自体のファンであるということではなく(もちろん、その要素も、最近はずえている?)、一人の、同世代の人間の生き様として、認められる!簡単に言えば、そういうことである(ただ単に、嫉妬?しているとも言える?)!!

ちなみに、分かる人は分かるであろうが、私も、彼も、昨年「古希」を迎えた(しかも、誕生日も同じ!彼が、少し早い!)、怪しげな老人?である!しかしながら、あのバイタリテイ、人と人をつなぐ、とてつもなく大きな力、ネットワーク力!同じ年齢の人間として、驚異でもある(比べること自体が、世間からは、まったく不適でもあると言われそうであるが?)!本当に、掛け値なしに、そう思う!有名・著名人に限らず、基本的には、他人(俗に言う「成功している人」?)に厳しい私ではあるが(本当は、優しい?)、何故か、彼には、そのような思いをしてみましたのである!しかも、「徐々に」!

なお、NHKの番組「今夜も生で さだまさし」、毎回欠かさずに見ているわけではないが(見るにしても、最近、録画視聴が多くなっているが?)、あの番組の内容、出演者、趣旨等も、大いに共鳴し得るものとなっている!多くの人が、参画し(手紙等を含む)、歓迎しているはずである!正直、何とも羨ましい限りである!

○やはり、「この」は書いておかなければ!!

過日、ある人(Hさん)の訃報に接した!第一報は、既に別のところから入っていたが、その後の、沖縄の知人(Sさん)からのメールで、改めて、故人の生き様(経歴等を含む)、存在意義の大きさを知らされた!添付の新聞記事によれば、「66歳」とあった!本当に、早過ぎる!本人も、さぞかし無念であったことであろう!察するにあまりあるところである!

そこで、先に、「さだまさし」のことを書かせてもらったが、ここで、「やはり、この」は書いておかなければ!!」ということを書き始めた理由は、かつて、がん宣告を受け、だが、不思議にも、今こうして生きている(ただし、糖尿も持ち、そして、せつかく生き延びているのだから、何か、自分が、やらなければいけないと思っていることをやろうと、それなりにもがいてきた私にとって、彼の生き様と功績は、とてつもなく偉大で、何よりも、素直に称えられるものであるからである!

なお、余計なことではあるが、一度、電話で話をした時の、(声)印象は、私と同じくらい?否、もう少し上?そんなことを思ったものであるが、それはともかく、その時の依頼?を、まさしく彼のためだけに、受け止めておけばよかったのかなあとも、今は思うが、ただそれは、それだけの話である!ということ、こんな形で申し訳ないが、私なりのお悔やみ、否、可能な限りの賛辞を送りたい!とにかく、お疲れ様でした!

最後に、ここでは、これ以上のことは書けないが、出身のM県では、事務職からG町の教育長になられ、確か公立では、日本で初めての「中高一貫校」を実現された(これについては、当時、私も、地域と学校の新たな関係ということで注目していた!その後の波及効果については、周知の通りである!)!

その後(いきさつはよく知らないが?)、H教育大学の大学院の立ち上げ(教育政策リーダーコース)に尽力され、多くの学生(現職の教育長等)、支持者・理解者を生み出される一方、S県O市、O府S市の教育長もされていた(まさにスーパーマン?)!知人の深い悲しみや、そして、何よりも、彼の存在の大きさを、つくづく感じさせられた次第である! (井上)

○古代史上で活躍する女性（姫神）達!!

古代史に興味をもっていない人には、この記事は、少し敬遠されるかもしれないが、実は、4月から始めている「古代史研究会」と称するズーム交流で、今月（15日）は、女性（姫神）に焦点を当て、意見（情報）交換をすることにしている。

であれば、一般には、すぐに、かの「天照大神」や「豊受大神」（伊勢神宮祭神）、否、「卑弥呼」や「白耳」（魏志倭人伝）と言う名が挙がってこようが、実は、今回は、何故か、前回の交流で話題となった、高貴山貴久子という人の『姫神の来歴 古代史を覆す国つ神の系図』（新潮社、2013年）を準テキスト?として行うことになっている。というのも、そこに登場している「櫛名田姫」と「丹生津（もろ）姫」が、なかなか解明できない、我が「日本（倭国）」の古代の真相を握らされている人物（勢力?）なのではないか?ということであるが、果たして、彼女達は、どのような存在なのであろうか?改めて、意見交換（新珍?発見）が楽しみである（否、不安先行かな?）!

なお、作者の高山さん自身は、残念ながら、若くして亡くなっている!もし、今も存命ならば、さらなる異彩を放っていたことであろう!!惜しいものである!

ということで、他にも、豊玉姫、玉依姫、スセリビメ、宗像三女神、神功皇后、よど姫、とよ姫、はたまた、神夏磯（かむなそ）姫、田油津（たぶら）姫等々、怪しげな?姫神達は目白押しなのであるが、一方で、かの琉球王朝では、国王一族の女性（姉妹等?）が、「聞得大君（きこえのおおきみ）」となり、奥（影?）の差配者として、一族を守護していた!それは、あたかも、かの「卑弥呼」のようでもあった!!つまり、神（おなり神/太陽神?）の意思を取り次ぐ、まさに「大日靈貴（おおひるのかみ）」であったわけである!!ちなみに、かつて「平塚らいてう」が、「元始、女性は太陽であった!」と言ったというところであるが、おそらく、それは、このようなことを指していたのかもしれない!!

〈短歌に託して名ばかりの文月?せて思っただけは〉

・岳陽チャンネル 苦肉の策の

最後の呼びかけ? これでよいのだ!

・同い年 いつのまにやら 気になる人に

その言動は 認められ得る!!

・敢えて書く 彼の偉大さ 二重にあり!

開きし世界と その生き様!

・太陽 月 星!

古代人の 想いは深し そは何故?!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(7)〈

○何故、二人の関係解明が「突破口?」となるのか?!

ということ、もし、そうだとすれば、そのことが、その後の九州と近畿（天和）の状況（二極化の構図?）を形づくっていったということになる（ただし、「日記」は、後者の「崇神」/物部氏?勢力からの歴史叙述であることは、言うまでもない?）!!しかしながら、まだまだ、私が言わんとすることは明瞭ではない（ある意味、当然ではあるが!）!!

つまり、史実?としての、当時の状況、氏族の関係が、具体的に描かれていないということである!!とは言え、その具体化の突破口?が、「開花天皇」と「崇神天皇」の関係解明にあることは、かなりの感触をもって言えるのではないか?今後は、そこに基軸をおいて進むだけ!!

そこで、改めて、何故、「開花天皇」と「崇神天皇」の関係解明が、その「突破口?」となるのかであるが、一つは、当時（8世紀前後）の、『日本書紀』編纂の主体（持統は、藤原政権が、第10代の「崇神」を、「大和王権」（近畿倭国→日本国）の、事実上の初代王（ハックニシラス

スメラミコト）としてしていることであるが、彼が、北部九州から（それ以前は韓半島?伽耶?）、おそらく吉備を経由して?、大和に入ったことは間違いないからである（嚮向/三輪王朝?）!!

ちなみに、創作上?の初代王「神武」（こちらも、ハックニシラスメラミコト）は、記紀全体の内容構成の必要（そもそも、我が国の紀元/起源を、識緯?思想を用いて、可能な限り古く見せるために、BC660年としたことによる!）から考え出されたことは、これもまた、ほぼ間違いない!!

ただし、そのモデル（タミー?）は、当然?いたのであり、それが、3世紀初期の、まさに鴨族の統領?「建角身命」（八咫鳥）であった!!とは言え、そこには、大きな穴（問題?）が生じた!要は、史実?を800年余り遡らせたので、その期間を、どのように埋めていくのかということである!!

そこで、これからは、私自身のオリジナル（空想?）かもしれないが、そこに、いわゆる「欠史八代」が考案され、その空白を補おうとした!!しかも、それらは、ある意味では史実であること、いわゆる「神話」という形で、婉曲に投影させた!!

とりわけ、伊弉諾/伊弉冉による「国生み/神生み」、そして「別離」、その後の、伊弉諾による「三貴子」生誕、そして、天照大神と素戔嗚命による「誓約（ちかひ）」、その後の「天岩戸事件」、出雲追放、八岐大蛇退治等、さらには、素戔嗚命の子?の大国主命による「国づくり、国譲り」等々。

そして、最後の、天照大神の孫の「瓊瓊杵（にぎはこ）尊」による「天孫降臨」、さらには、「日向三代」の物語と続いていくわけであるが、実は、それらは、単なる神話ではなく、持統・藤原政権が把握していた、大和建国あるいは政権獲得までの史実であり、それらをデフォルメ化したものだったということである（だから、欠史八代の事績自体は、少ないのでもある?）!!（つづく）

〈編集後記〉日本全国が、今年もまた、集中豪雨や暑さに苛まれていくというのに、こんなことを書いていただけでよいのかという自己嫌悪?を感じながらも、今回もまた、一応紙面を構成することができた!コロナ第9波?気にはなるが、私達なりの夏の羽ばたき?そういうことである。（井上/堂本

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 8 号

発行日
2023. 7. 30
編集・発行
井上講四/堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

〇「よ、よ、」ID問答」の方は、終わりとなる!!

既に承知されている人も思うが、別途HP上にアップしている「ID問答(内なる対話)「意味ある世間話」となるや、否や!!」も、一応「了?」という形で、過日、締めを行った!自らの内に、二人の人間を操り(ある意味「遊び心」からであるが、そればかりではないことは、分かる人には、分かってもらえているはずであるが?)、世の出来事や自分(達?)なりに、これは書き留めておかなければと思つたことを、まさに対話形式(ダイアログ)で、書き綴ってきたものである!

ちなみに、そこでの記事(①~⑩)は、「総集版」として、改めて、HP上にアップするつもりである(昨日22日にアップした!古いのを合わせれば、今回の分は第3弾ということになるが、興味のある(余裕のある?)人は、通しで、(再び?)読んで欲しいものである!

なお、もう一つの「新・教育協働への道」も、一応は、次のステージ(⑪)に移ってはいるが、そこでも、何故か「つづく?」という、怪しげな表記で終わらせている!「いつ止めてもいい?」という思い(覚悟?)を、そこに忍ばせているが、これについては、もう少し成り行きを見てということではある!!

いずれにしても、こちらの『岳陽』と共に、二人(私井上と堂本氏)の共作としては、最後のもの?ということになるわけであるが、記憶力と思考力(遊び心も?)の減退(消失?)に抗うための良策であることは言うまでもない!!果たしてどうなるか?暑い夏ではあるが、当面は(下肢の不調にもめげず)、書き続けていくことになる!

〇ふと思つた?我が書きモノの行く末?!

ところで、ここで、ついでと言つたら、少し複雑ではあるが、最近、偶にはあるが、HP上にアップしているものを含めて、これまでの、私の書きモノ達は、いつ、どのように処分? (笑)されるのだろうかと思つて、思ふことがある!

本や紙の資料等(既に、かなりの分は処分しているが!しかし、何故か?古代史関係は、嫌というほどある!)は、たとえ私が処分しなくても(出来なくなつても)、目に見えるわけではあるので、誰か(私の奥さん?もしくは、娘達?)が処分してくれるとは思ふが(ただし、どう思ふいでやるのかは別問題?...笑?)、パソコン本体やUSBの中の書きモノ(データ)は、別である!!

ちなみに、私以外の人達(昔の人達?)は、そういう心配?もなく、後に続く家族、あるいは所縁の人によつて、篤く保管されるか(例えば、〇〇文庫として?)、図書館への寄贈という形で処遇されることではあるが、私のモノ達は、そういうわけにもいかない(要は、他の人達にとっては利用価値がない?所在も、バラバラ?)!!

ということ、いとも簡単に、処分(廃棄または焼却)されているかもしれないということであるが(冷静に捉えれば、残される側にとっては、懐かしきはあつても、実際には厄介な代物となる?)、パソコン上のものは、私自身の生き様(世間的に言えば、道楽?)を示しているものであるので、こちらの方は、いつの日か(決断の日?)、自らで消せればと思つてはいる!!そういうことである!

〇とんでもない若者達?そこにあるのは、異次元の世界?!

急遽、ここでは、違う話題にすることに!用意していたものがあつたのだが(これについては、いつかまた取り上げる予定である?)、この感激(否、むしろ驚き?)否、それ以上?)を忘れてはいけないとも思ひ、見出しのテーマとした次第である!

まず、そのテーマからしたら、やはり、あの大谷翔平のことである(またシーズン途中ではあるが!)!!かのWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)での活躍はもちろんであるが、その後のシーズン・プレイ(三刀流)についても、何とも言えない活躍(雄姿!)である(もちろん、こんな表現では生ぬるい?)!

ただし、ここで書き記しておきたいことは、実は、そういうことではない!大リーグで活躍している(した)選手は、あのイチロー選手を始め(凄腕記録も残している!)、数多くいる!まさに、彼らも、とんでもない若者達なの(だったの)である!しかも、そうした若者達は、様々な種目・分野で、無数にいると言えるのである(もちろんスポーツ以外でも?)!

しかし、やはり、あの大谷翔平選手は違う!否、突然ではあるが、あの将棋の藤井聡太七冠もそうである!否々、一番ホットなところで言えば、先日、VNL(バレーボールネーションズリーグ)での、日本チームキャプテンの石川祐希選手もそうである!!では、改めて、彼らは、何が違うのか?

もちろん、その答えは、人によつて異なるであろうが、私がここで言いたいことは、彼らの活躍(実力?)は、他の人がどれだけ頑張つても、その域には、おそらく達することが出来ない?それくらい、異次元の活躍(実力?)なのではないかということである(ただし、そこには、恵まれた体と頭脳があり、そしてまた、それに劣らぬ鍛錬(意志を旨めて!)があつたのであろうか?)!!しかも、何より、自らが自らの世界(時空)を楽しんでいるようにも見える?そこが違うのである!!

だが、誤解されては困るが、多くの人の努力や鍛錬の無意味さを述べているのではなく、今まさに、そうしたものを越えた(超越した?)若者達がいる(出てきている?)!そういうことを、素直に驚きたい、歓迎したいということである! (井上)

○改めて、「了?」の意味を問う?!

先に、I氏の方から、「ID問答」形式の論稿（記事）作成は、一応の締めを行ったことが示されたが、ここでは、その最後に記された「了?」の意味について、私堂本の方からも、思うところを、少し補充（敷衍?）しておきたい!ただし、これは、ただ単にそれを補うということではなく、私堂本の方からの、心からの返答?ということである!

何を二人?で戯れているのだという、お叱りもあるであろうが、まさに、この「ID問答（形式）」は、I氏の、それこそ「意地?」と「浪漫?」の為せる業であり、仰々しく言えば、彼の、言わば「プライド」、否、「セルフ・ダイグニティ」でもあるわけである!ちなみに、前者は「誇り・自尊心」、後者は「(自己の)威厳・尊厳」という日本語ということになる?か（I氏は、後者の言葉と出会った時から、何故か、そちらの方を大切にしている?）!!

もちろん、俗世?においては、どちらでもよいのである?が（双方共に、自らが抱く自意識であることに違いはない?）、前者が「見栄や虚栄」、後者が「品位・品格」、そして、前者は、外（他人）、後者は内（自分自身）に対しての発動というようなニュアンスもあり、I氏は、後者の方を、好んで使用しているということである!!
いずれにしても、人間は、その自意識の発露として、「プライド（誇り・自尊）」や「ダイグニティ（威厳・尊厳）」を持つものであり、それがなくなると、単なる生き物（死んではないという存在）となる?!ただし、そういうことは、他ならぬ自分自身が思うことであり、他人が、どうしよう言うことではない!!
とは言え、そういうことを論ずること自体が不遜であり、ある意味では、そういうことが出来ること自体が、恵まれし者?の、それこそ「見栄や虚栄」なのかもしれない!!老いていく者の「了?」の意味には、そういうことが被さっている?!そういうふうにも思うのである!!

〈短歌に託して〉我が「書き記すこと」の意味?!

・問答 に 千々に寄せにし 我が思い

如何なる形で 次を求めむ?!

・ふと思つた? 我が書きモノの 行く末?!

PC/USBのは 誰が消す?!

・予定を替えての 我が書きモノ

記したきは 若者達の 新たな時空?!

・了?と書く 思いの先に 何がある?

実はそは 老いの生（所為きと）?!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑧?!

○新たな「旅枕」? 「宮地嶽神社」の謎は見えるか?!

さて、「旅枕」と称しながら、そうした風情は一向になく、少々焦っていたところであるが、近々、その「旅?」が実現しそうである!ここでは、その「旅?」自体については触れないが（後日?別途、紹介することにはなるであろう?）、実は、このコーナーのテーマ（老松（神社）を追う!）と、おそらく大いに関わってくるであろう?。福岡県の「宮地嶽神社（及び境内の横穴式石室）」を訪ねることになった!たまたま当地に寄る機会ができて、ちょうどその時（今年2月8日）、年3回あるという、同神社の古墳の開陳という僥倖?に与れることになったのである!

しかるに、「宮地嶽神社」は、県内でも有数の神社であり（年に2度、境内石段から玄界灘まで真っすぐ伸びる参道の延長線上に夕日が沈む「光の道」で有名!）、主祭神が「神功皇后」で、「陪従神」として「勝村大明神」と「勝頼大明神」（あまり知られていない?）が配祀されているという（三神を称して、「宮地嶽三柱大神^{みよぢがたけさんしちむすびおおかみ}」と呼ぶらしい!）。

⑧ 詳しいことは、ここでは書けないが、ここで、私が注目したのは、主祭神の「神功皇后」はともかくとして（本筋としては、最重要人物?）、「陪従神」とされる「勝村大明神」と「勝頼大明神」という、耳慣れない（不思議な?）二人の神のことである!別説によれば、「安（阿）部 飯相^{いへすけ}（宮地嶽大明神）」「藤^{とう}高磨（勝村大明神）」「藤^{とう}助磨（勝頼大明神）」、あるいは「宗像三女神」と「勝村大明神」を祀るとも言われているらしい!!
深入りすれば、何ともややこしい?神社のような気もするが、ここで、改めて気になるのは、「藤^{とう}」という名の人物（神）である!現在（代）も、まさに「藤^{とう}さん」という人が、福岡県にいるが（知人にいた!）、この「藤^{とう}」氏?の末裔なのではないかと思ったりもする?!

ということでは、このまま「宮地嶽神社」を深掘りしていくと、これまでの、「老松（神社）」への接近が、ある意味遠ざかる恐れもあるが、実は、この神社と、近場の、かの「宗像大社」とは因縁深い関係にあり（前者は、後者の「元宮」だったというような話もある!）、そして、その両者（神社）は、件の「老松（神社）」と大いに関わる?、筑後の「三沼の君↓筑紫の君?」が庇護（進出?）した神社であることも、間違いないさ?のようなものもある!!

しかも、その筑後には、他ならぬ「藤（藤）大臣」という人物もおり（武内宿禰ではないかとも言われている?）、先の「陪従神」「藤^{とう}」氏?のことが、俄かに頭を過るわけである?!!であれば、その「三沼の君↓筑紫の君?」が、「大善寺玉垂宮」や「高良大社」の創建を担ったことは、これもまた事実のようであり、かの「空白の4世紀」の重要な場所と見做される「北部九州」の実態が、そこからも、見えてくるかもしれないのである?!!（つづく）（堂本）

〈編集後記〉今回は、いつにもまして、過去を振り返ること（モノを通して?）が多かったが、それは、裏を返せば、新たなモノを得る機会が、やはり少なくなっているからであろう?!ただし、古史においては、偶然的な機会であるが、「宮地嶽神社」間接的には「宗像大社」にも視野を広めることが出来そうである、大いによかつた、一人（否、二人?）喜んでいるところである!もちろん「旅?」自体も、楽しみであることは言うまでもない!（井上/堂本）

「岳陽」と共に

第 9 号

発行日 2023. 8. 15
 編集・発行 井上講四／堂本彰夫
 ※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所
 ～岳陽舎～ (井上講四宅)
 Tel:098-963-9282
 E-mail: gakyou17@outlook.jp

○やっこの思いで帰沖！何というハプニングの連続！

戻ったら、予定していたタイトル（話題）で書こうと思っていたが、あまりにも、今回の旅（福岡・岡山・鳥取のインパクトが強すぎて、急遽変更して、この旅でのことを題材に書いていくことにする。なお、予定のタイトル（話題）は、何故か、忘却のかなたへ：（何と言う記憶力？）!!

とにかく、まずは出発日（先月28日、台風5号の影響で飛行機が飛ばないことを心配しているが、予定通り飛んでくれて、初日の福岡での、高校時代の旧友との再会（宮地嶽神社訪問を含む）も実現したが、次の、思いもよらぬ台風6号の襲来によって、帰沖の日（31日）が大幅に遅れた！

本当に予期していなかった事態で、我が家に戻れたのは、実に、月が替わった3日であった（結局、2倍の日数！）
 延泊は、幸いにも、福岡にいる次女のアパートで出来たので問題はなかったが、帰りの便のチケットがなかなか取れず、3日の便となった次第である（移動の大変さはあったが、4日の、鹿児島空港からの便も押さえてはいた！）！ちなみに、これらの手配もまた、我が奥さんによるものである！何という人なのか（スマホの達人？）！

しかし、ここには、思わぬハプニング？そして、さらなるアクシデント？が挟んであり、まさにとんでもない旅ともなった（飛行機は飛んだが…笑）！その一つがコロナ感染未遂事件で、我が奥さんが、鳥取でもらったかもしれない？コロナの濃厚接触者となり、二日間は、次女のアパートで、逼塞状態を過し、何とか確保した3日のチケットで帰れることになったのであるが、福岡に引き返すこともあるという条件の中での、ひやひや帰路であった！

💡だが、あにはからずや、次なるハプニングが、密かに待ち受けていた！というのも、現在空港の上空に雷雲が

発生しており、出発を見合わせるこのことであった！もちろん、それでも帰れるなら、それもやむなしというところで、2時間近く待つて、いざ改めて出発というところで、畿内に着席して、しかも、いざ離陸という直前に、今度は、機長からの、予期せぬ畿内アナウンスがあり、冷房システムの異常で、回復に時間がかかるということ

で、待つていたが、結局回復せず、思いもしない、機材変更ということにまでなってしまうた！よくぞ、こんなことがあるものである（まさに初めての経験）!!
 乗客全員、荷物ともども、搭乗口まで戻され、1時間半くらい待たされ、やっこの思いで、再搭乗の運びとなった！都合4時間くらい遅くなったが、幸い那覇空港には降り立つことが出来た！本当に、やれやれであった！

ついでながら、家に着くと、電気はついたが、断水状態であった！とにかく、大変な旅であったわけである！
 ○とうとう、私（達）のところにもコロナが来た?!
 なお、ここには、この話の続きともなるが、とうとう私（達）のところにも、コロナが来たのかということ（鳥取で濃厚接触者となる！とりわけ我が奥さん！）、まさに、覚悟をしたということであるが、どういう訳か、一緒に行動した私達（家族全員6人）は、全員発症することはなかった（本当にやれやれである！）！

ただし、（私達の）この結果が、都合6回のワクチン接種の賜物なのかどうかは分からない？まだまだ、コロナの脅威は、そこそこにあるということでもある！

○今も継続中の台風禍！世界的な異常？

こちらでは最後になるが、こんなに長い時間、私（井上）の日常生活（旅を含む）を混乱させていながら、今回の台風（6号）は、まだまだ近海をうろつき（進路が変わり、動きも遅い）、新たに九州地方を襲おうとしている！そしてまた、その東方海上には、俄かに新しい台風（第7号）が発生し、盆休み期間、日本本土（東日本→西日本）を直撃しかねない動きを見せている!!

地球温暖化の影響で、これまでの気象条件が、かなり変質し、かつて経験したことがないような、世界的な異常気象が、各地で出現してきているようであるが、今回の度重なる、そして奇妙な動きを見せる台風の襲来は、その一環なのかもしれない!!
 そんな中、今回の台風（6号）から思い出されたのは、いつのことだったかは定かではないが（他にも、台風によって、予定していたスケジュールやイベントの中止・変更は、数限りなくあるが）、ある時の台風が、東シナ海上で東西を行き来し（ほとんど二直線上?）、その間の学部行事（ユース・クロスロード、確か「座間味?」が出来ず、秋に、やり直したことである！）

ちなみに、その時は、何故そのような動きとなったのかは分からなかったが（自然・神?のいたずらだと思っていたようにも思う?）、今回、改めて分かったことは、その原因が、太平洋高気圧の張り出し具合（偏西風の動きも連動した?）によるものであるということである！

とにかく、ここ沖縄は、毎年、このような台風禍に悩まされるのであるが、実は、冷静に捉えようと、本土でも、毎年、どこかで水害に見舞われ、各地で、その爪痕、悲しい記憶が、積み重ねられている（テレビ等で、それぞれの慰霊祭等が、頻りに紹介されている!）！今や、全国どこでも、そうした災害が起こり得ることを示しているわけである（「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」といった用語の使用は、まさに日常茶飯のこととなっている!）！

末尾だが、災害による行事の変更ということも、もう一つ思い出されるのは（生涯学習教育研究センター長時代）、かの3・11のことで、文科省との共催で開いた大々的なイベントが中止となったことである（後日開催！大変な思いをした！）（井上）

○パソコンなしで過ごした1週間！

さて、表のI氏の報告？からも分かるように、私堂本の方は、一週間も、パソコン操作から離れてしまったことになる！多分、こんなことは、この地に引越してきて初めてである！しかも、たとえ旅先であっても、何かを考えたり、本を読んだり、はたまた短歌の走り書き等を準備しながら、I氏と共に、私堂本も動き回るのであるが、今回は、そのようなハブニングやアクシデントの連続が、現実の行動を甚だしく規制するものでもあったので、ほとんど何の蓄えもなく、帰宅した次第である！しかも、心配だったのは、パソコンに向かう気力であったが、案の定、台風之余波も続いたこともあり、ほとんど芳しくない状態で、数日を過ごしたことになるわけである！つまり、この間は、単なる旅先脳、日常脳(要するに、その日、その時に、取り敢えずは何をするのかだけを考えている状態？)であったわけであり、いわゆる「思索脳」ではなかったということである！だから、なかなか文章がうまく作れず、この記事作成も、あつちについて、こつちについていたりの状態で進めている次第である！

○100歳で「生きて」孫達を集む！何という逞しさ!!

ところで、このことは、是非、私堂本の方から付け加えておきたい！それは、今月で100歳となる義母のことである！今は、それを祝う会も、おそらくあちこちで開かれているだろうが(沖繩では、そのお祝いを「カジマヤー(風車)」と呼んでいる、我が近親者には、これまでそういう人がいなかった)、いささか驚いているわけであるが、それともかく、ここで言いたいことは、この100歳の義母(老女)が、自らの孫達を全員(曾孫を含む)、「生きて」、一堂に集めたということである(過ぎ去った、若かりし頃のよう！)！私は、このことに、いたく感動するのである！

ただし、余計なこと？であるが、三人の子ども達(連れ合い含む)の二組は、実はコロナ感染で、出席が叶わなかった！したがって、何とも奇妙な集まりとなった(まるで「いと云」の様)。しかも、これには後日談？があり、当の義母も、次の日に感染が確認されたということである！当日、それが分かっていたならば、その会自体も、本当は実現しなかったということもある！何という「遅しき」！

〈短歌に託してよくぞこんなにいるんなことが！〉

・台風 コロナ 雲雲 そして空調！
よもやこんな旅に なろうとは!!

・だがこれもまた 楽しき
そして思い出深き 旅となる!!

・福岡・森山・鳥取 懐かしき家族旅行
こんな光景 昔は沢に

・100歳の老女 コロナに負けじ
生きて孫達集む いと凄し!

・宮地嶽 福岡・佐賀・長崎に 散在す
この理由も明かす 文献欲す

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑨

○残念ながら、「宮地嶽神社」の謎は追えなかったが…!!
翻つて、今回の旅の、もう一つの楽しみであった「宮地嶽神社」訪問であるが、残念ながら、その謎は追えなかった(ある意味当然ではあるが)！ただし、巨石(近くの相島から運ばれた玄武岩 古墳(6世紀末建立？横穴式石室)大塚古墳)四墳(奥之宮)三番社不動神社。日本一の大きさを誇る)を中から見ることが出来て、貴重な体験とはなった！いずれにしても、よくぞこんなものを作ったものである！余談ではあるが、そうめん流し(無料)もいただくことが出来た！予想外の贈り物？であった!!

改めて、その古墳は、当時の北部九州の王(安曇族)墓とされ、その黄金の出土品多数(国玉)から、地下の正倉院とも呼ばれているようである(金の鏡・冠・馬具類・大太刀等数多くの埋蔵物が発掘され、20点が国宝に指定)！有名な「光の道」は、当然現れなかったが、後背の山(在自山/宮地嶽)と社地、そして、階段と鳥居が織りなす光景は誠に秀逸であった！しかも、その鳥居の神紋が、かの三階松紋(老松)であったことを後で知った(本当は、ここに迫りたかった)！やはり、これは、筑後(第9代)開花天皇あるいは「藤大臣」？と関係がある！そして、そこには、改めて「安曇族」との関係もあるわけである！

とは言え、これだけの収穫で終わるわけにもいかないので、新たにネット上の情報を探してみると、何と、この「宮地嶽神社」、ここを総社として、福岡・佐賀・長崎に散在しているとのこと(17社。我が故郷唐津には2社も)！しかも、それらは、見ようによつては、例の筑後の高良大社周辺と背振山系を、それぞれ取り囲むように配置されている!!

まずまず興味を沸くのであるが、もちろんその詳細は分からない！何故、「宮地嶽神社」がそのように配置されているのか？どこかに、その情報はないものか？だが、そこが、新たな謎(「空白の4世紀」の真相解明の道?)として、浮かび上がってきたことだけは確かである!! (堂本)

〈編集後記〉ということで、以上、台風を挟んだ、本土への旅のこと(そこにあつた数々の事件?)を、過去の思い出とともに書き記してきた！本当に、旅は何が起きるのか分からないもの!!ちなみに、古代史では、結果的には「宮地嶽神社」への接近が、少し出来たのかもしれない!!とにかく、かの「神功皇后」伝説は、大いなる謎(真実?)を有していることは間違いない!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 10 号

発行日
2023. 8. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○この世界は、一体どうなっている(く?)のか?!

先号(第9号)では、急遽予定を変更して、この夏の旅(福岡・岡山・鳥取)の中心に書いた。そこで、(こ)では、元々予定していたテーマ(話題)で書いていきたいわけであるが、そこに予め書き記していたのは、「金スマ」、そして、「ヒューマニエンス」というキーワードであった!しかしながら、果たして、どのようなことを書きたかったのか?残念ながら、その具体的な内容(具材?)が思い出せないでいる!何という、体たらくなのであるのか?!

ただし、見出しは、標記のようにしていたわけであるので、そういうことに関わる内容のことを書きたかったのであろう!!おそらく、「金スマ」については、7月21日の【エンタメ界を変えた!「音楽の日」事務所垣根を越えた90人ダンスコラボの裏側】という番組のこと、「ヒューマニエンス」については、毎回知らされる最新の研究成果からであろう(ちなみに、前者の番組は、直接視聴しているわけではない!)!!

とにかく、今改めて思うことは、世界が、「思っている以上が変わっている」、これまで当たり前だと思っていたことが、当たり前でなくなっている(気象等を含めて)!!そういうことが、あらゆる分野で起きているということである(教育も然り?)!!
ちなみに、最近よく、「ニューノーマル(新しい普通?)」という言葉の方がされるが、問題は、それが、どのように、人々の生活(生き様)に影響を与えるかである!!全員が、うまく適応できるとは限らない!!そこにまた、新たな喜怒哀楽が生まれる!!

○久しぶりの、沖縄での家族再会!懐かしいが、以前と違うものも多々あった!!

いずれにしても、そうこうしている間に、今年の盆休み(13~15日)も、あつという間に過ぎ去ってしまった!そこでは、例の、怪しげな?本土旅の、すぐ後の再会自体は、それほど喜びではなかったが(もちろんこの間のコロナ禍で、この面々での沖縄での再会は久しぶりではあったが)、懐かしさも手伝って、楽しく過ごさせてもらった(私の夏は、ここが終わったということ?)!

しかも、私自身は、腰や下肢の不具合があり、動きそのものは、まさに老体そのものであったが(何とも情けない!)、何とか昔と同じような光景を再現しようと、精一杯の努力はしたつもりである(特に海での釣り)!!
なお、この間、福岡で夜間保育の仕事をしているOさん(北海道出身。ゼミ生ではない!)が訪ねて来たり(別便で、北海道の変わった?日本酒も頂いた!)、昨日(27日)は、今や恒例?となつている、これまた北海道出身のO君(沖縄で小学校の先生をしている)がトウモロコシを持って来たりと、当時の若者達との再会も、それなりにあった!本当に、有難いものである!

思うに、今やこういう機会(再会)も、めっきり少なくなつており(もちろんコロナのせいでもある)、こうした訪問は、非常に貴重で、その中で、他の若者達の近況(消息?)等も知れるのである!ということ、出来たら、彼らとも、またいつか出会えればなあとも思う次第である!やはり、時は過ぎ去っているわけである!

○最後(最期?)に書くべきこと!!

ところで、これについては、以前どこかにも書いたかと思うが、そしてまた、多分これが、もう一つ、先号(9号)のために書き記せなかったことでもあるが、一つケリ?をつけておかなければいけないことがあるということである!!ただし、その思いは、この間の様々な出来事によって、かなり色褪せたものとなつてはいる!!やはり、物事には、「旬」というものがあるということである!!否、それはまだ、機が熟していないということでもある!!

まあ、それはともかく、改めて、それは、私(達?)が、ここで「最後(最期?)」に書くべきこととは何か?ということであるが、たとえそれがどのようなふうにも(結局は、実現しないこともある)ということであるが、一応(二度?)は、事前に明示しておきたい、言い換えれば、途中で?、自分(達?)に言い聞かせておきたいということである(ちなみに、忘れないために?笑)!
ということ、私(達?)と同じ「古希」を過ぎてしまった人でも、毎日が忙しい、あるいは他にやる事が山ほどあつても、とてもそういう「暇人の戯言?」には付き合つてはおられないという人もいるであろうが、少なくとも、これまでの私(達?)からすれば、これは、とても大きな宿題(卒業課題?)でもあるわけである!!

要は、故あつて、ある意味本意な?日々を、既に7年以上も送ってきた私(達?)であるが、もつそろそろ、そうした心持ち(過去への拘泥?)は脱して、真の老後?を送り始めなければ(否、楽しまなければ?)いけない!!そうでなければ、はつきり言つて、自分自身がみつともない(惨めだ?)ということである!!そんな思いが、ここに来て募つているということである!!

ついでながら、その最後(期?)に書くべきこととは、「教育」「沖縄」「古代史」のことであるが(だが、本当の?最後(最期)は、「家族」のことかも?)、問題は、いつの時点で、それらを書き記して(否、残して)いくかである!!今は、まだ何とも言えない!とにかく、「その時」が、それぞれ来るはずである!!ただし、その予備作業は、今、ほとんどは終わつている!! (井上)

○そんな中、見つけ出してしまった、別の次元での、もう一つの過去!!

ということ、表に最後に記された、I氏の思い(最後(最期?)に書くべきこと!!)であるが、やはりそこには、まさに「終活」に向けてシフトしているI氏の姿(心の動き)が垣間見えるわけである!!したがって、もう一つの問題は、それに連動して、私堂本の方は、どのように、それに絡んでいけばよいのかということとなる!!

そんな中、改めて、表の記事とは、直接には連動しないが(否、そうでもないかもしれない?)、いつものように、一日の最後の仕事?ということ、深夜(正確には早朝?)、パソコンに残していると思われた、ここ(宜野湾市の大謝名に移り住んだ直後の頃の書き物(現在、HP上に乗せている書き物とは違う、もう一つの、言うなれば隠された秘密の書きモノ?)を見つけてしまった!それは、私達(直接的にはI氏!)の、表には出していない、「別の次元での、もう一つの過去!!」ということでもある!!

ほとんどが、未完のもので(私小説的なものもある)、いつかは書き上げようと思つての、まさに「途中」の代物ばかりではあるが、その時はその時で、精一杯の思いを込めて書いたものであろう!ちなみに、I氏の、大学院時代の提出レポート(打ち換え)も収録されている!

ただ、今改めてそれを見ると、ほとんどが、私堂本の作品となつており、それを、今更どうすればよいのか、いささか困惑しているわけでもある!!しかし、折角同じパソコンのフォルダーに入れているわけであるので、何とか整理しておかなければならない!!否、いつかは、これもまた、「その時」が来たら、何らかの形で葬らなければいけない!!
そんなこんなで、パソコンとは厄介なものである!!

○改めて書き始めた? 「新・教育協働への道」!

ちなみに、最近の書き物から、私(達?)の、特に「教育」に関わる論考に、かなりの弱気(諦め?)が窺(うかが)ひ始められていることは、誰にでも分かると思うが、ただそれだけであれば、やはり何とも情けない(悔しい?)!まだまだやらなければ、頑張っている人達に申し訳ない?否、自らの老いに、ただ負けている!!そんな思いも、離れずにある!!それ故に、この夏の暑さともおさらばということ(実際は、まだまだ暑い!)、別コーナー「新・教育協働への道」をみてもらえよと思うが、新たに(ただし、これは何度目かな?)、そして元気に、次なる?歩みを始め出した!!

とにかく、まだまだ止まつてはいけない、否、止まつていたら、ある意味(状況次第では?)、絶好の(「真正銘最後の?」)機会を逃すかもしれない!!だから、もう少しだけ頑張つてみたい!!そう思つてのことだということである!!※そこで、もしよかつたら、そして、興味のある方は、是非こちらのページ(別コーナー)も、笑読下さい。

〈短歌に託して今年もまた、夏が過ぎる!!〉

・ ニューノーマル その物言いに 何がある?

混乱だけなら アブノーマル?

・ 久し振り 顔を合わせた 全家族

同じようだが 同じではなし!

・ 最後に書くべきこと!!

そんなことまで 何故記す? 誰のため?

・ 断捨離? それとも終活?

我が秘かな書きモノ 如何に葬る?

・ いつまで歩むか? 教育協働への道!!

躓(つまず)くだけだったら ただの道!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(◎)

○開花天皇 高良大神、武内宿禰、住吉大神、神功皇后の絡み? そこが解明されれば、一気に謎は解ける!!

話は、ここがらりと変わるが、いわゆる「大和朝廷(厳密には、8世紀初頭の持統・藤原政権)」が、記紀の編纂(ひよつとしたら『日本書紀』だけ?)を通して(「神話」の創作を含む)、自らの政権の正統性・正当性を言い募り(でつち上げ?)、都合の悪い(本当は真実であった!)過去の歴史を歪曲あるいは改竄して、かの(自分達に都合の良い?)「万世一系」の系譜を創り上げたということ(ほぼ間違いない!)ということ(しかし、現時点では、このことさえも、まだまだ真実とは捉えられていない?)、そして、その中で、最も核心の部分となるのが、まさに現在追跡?中の開花天皇(玉垂命↓老松?)、高良大神(高良大社↓太宰府天満宮?)、武内宿禰(藤原大臣?)、住吉大神(塩土老翁?)、そして、神功皇后(息長足姫)の絡み?」なのではないかということである!

ただし、いずれにしても、その「絡み?」の解明で難しいのは、そこにあった「旧奴(那)国(倭奴国?)」の存続状況であり(例の「帥升王」や本来の奴(那)国王であった?「大幡主(天若子命/武埴安彦?)」の存在↓多分そこに、かの「卑弥呼」「邪馬台国」の出現が関係している?)、その後の「吾(台)与(「神功皇后」に仮構されている?)勢力の移動変質の過程であること(言うまでもない!!)

端的に、かの2世紀末の「倭国大乱」が、どのような勢力によつて、どのように引き起こされたのかということであるが(そこら我が国の形/倭国↓日本が作り出されてきた?)、このコーナーで話題としているのは、そこでの「開花天皇(玉垂命↓老松?)」、そして、「武内宿禰(九州中南部から北上してきた「熊襲」勢力↓姫/紀氏?)」らが、それらとどのように関わっているのかということである!!そしてまた、その攻防・交わりの地が、高良大社と背振山系周辺であったということである!!(堂本)〈編集後記〉今回は、いつもの台風とともに、そこにおける数々のハプニングが、ここでの記事作成に大いに関与し、予定していた題材もほとんど瓦解!!しかし、一応は、書きたかったことは書けた!!そういうことである!なお、古代史の方は、改めてこれからである!福岡への旅は、今後とも増えるかもしれない!!(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 11 号

発行日
2023. 9. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○メディアが創る？虚構の世界!!

過日、某テレビ局の「24時間テレビ」の一部を見た(ある時期は、確か子ども達と一緒になって、一生懸命に見ていたように思うが、最近ではほとんど視聴はしていなかった!)。ひょんなことから、そこに、理央奈ちゃんという、6歳のインフルエンサー(障がいをもっていても関わらず、健気に生きている!)が出てくることを知り、その活躍(存在)に驚いた(感動させられた?)。詳しいことは、ここでは書けないが(忘れてしまってもいい?)、とんでもない少女であった! しかも、これだけではない! 同番組のウリ?でもある、「チャリティマラソン」の、今回のランナー、ヒロミ(呼び捨てで申し訳ないが?)のことも、正直言って、心を打たれた! 一応は芸能人であるので、番組を盛り上げるための芝居だったかもしれないが(家族やスタッフを巻き込んだ?)、私には、それを越えて、一人の人間の真摯な生き様を見させてもらったように感じられた!

ということ、テレビを始めとして、多種多様なメディアが、真実を伝えたり、意味のあるエンターテインメントを提供したりしているわけであるが、そこには、奇妙な?虚実合いまみえた現実が存在する!!そして、そこには、たとえ偽善(創善?)と金儲けであっても、それによって感動、そして救われる人達がいる!!実は、そのことも、大切な事実だということもある!!ただ一人、心で思っているだけでは、そういうことは実現しない!!改めて、痛感!ただ、メディアの虚構というものはそういうものであるが、その中に、決してあつてはいけない(だが大いにあり得る?)人間模様もある(今回の某芸能Pのように!)!!

○果物が織りなす「サマーフェスティバル」!!

さて、ここでは、ある意味珍しい話題となるが、この夏は、様々な果物との出会いがあった(いつもの夏も基本的に同じであるが?)!メロン、ブドウ、梨、桃といった案配であるが、後者三つは、ほぼ同じ時期のものであるので、そういうように思うのかもしれない!!

ただし、もちろん、これらは、すべて自前で得たものではなく、私と、私の奥さんの兄弟/姉妹、そして知人からの贈答品である!それに、私達が贈ったマンゴーを加えれば、それこそ、果物が織りなす「サマーフェスティバル」(ちよっと大袈裟か?)といったところである!!糖尿病を患っている私からすれば、かなり複雑な「サマーフェスティバル」ではあるが(二度に沢山の量は頂けない!)、いずれにしても、私達の兄弟姉妹(そして、当該知人も)は、全員が70歳以上の高齢者である!しかも、私の長兄と次兄は、近況報告?によると、それなりの大病を、最近患っていたらしい(手術・入院もあった!)。要は、こうした遣り取りを、いつまでやれるかということでもあるが、改めて思うと、最早!こうした遣り取りが、自分達の関係(つながり意識)を実感する、数少ない機会となつてきているのかも!だから、やれる間は、やり続けよう!そんな会話も、今回したばかりである!

メディアでの様々なニュース、嬉しいスポーツニュース、そして、醜悪な芸能ニュース、そういう中での細やかな身内話。これもすべて、今の私の日常なのである!ちなみに、ウクライナ情勢だけは、別次元で気になつて(毎日ネットで見て!)!これも、日常である!!

○我々の世代は、歴史から抜け落ちている?!

ところで、最近よく、「Z世代」という言葉を耳にするが、あまり気にもせず、いつものように、マスコミが創った(煽った?)気まぐれ新造語(例えば、〇〇王子のような?)だと思つてやり過ごしていた!しかしながら、今(ここで、改めて書くことではないかもしれないが、あるネット記事(池上彰氏の本に関わる)を読みながら、ある意味では大変なこと?を思い知らされた!

それは、我々(今現在、「古希」前後を生きている世代。ただし、数年間?否、そうでもなさそうである?)が、残念ながら、「歴史から抜け落ちている世代」なのではないかということである!!端的に言えば、戦後間もなく生まれた「第一次ベビーブーム世代(団塊の世代)」はともかく、その子ども達にも、「第二次ベビーブーム世代」という、歴史を背負う?名前がついている!!

ただし、問題は、それではない!第一次ベビーブーマー達が大人になり、社会の中心を担う世代になったとき、「次の世代は何だかよくわからない」「われわれの常識が通用しない連中だ」ということで、「X世代(60年代中盤〜80年頃の生まれ)ジェネレーションX」と呼ばれた!

それはそれでよいのであるが、実は、その次の世代(81年〜90年代中盤生まれ)が「Y世代(ミレニアル世代)」(ミレニアム/2000年を経て成人していく、多感な青春時代以降を21世紀にすこす世代。若いときからインターネットや携帯電話を使いこなしてきた)。そして、その次の世代(90年代中盤から2000年代序盤頃に生まれた世代。主に現在の中高生から20代を指す)が「Z世代」と呼ばれ(単なるアルファベット順ではあるが!)、彼らは、物心ついたときにはスマホが身近にあり、インターネットのない生活を経験したことがない最初の世代だということである!

で、2010年以降生まれの人たちは、「R(リアル)世代」と呼ばれるようである!!ということ、団塊の世代以降、1960年代中盤までに生まれた我々には、〇〇世代という位置づけがない!!我々の世代には、歴史を背負う名前がない!!そういうことである!!何と言うことだ!!(井上)

○何故か蘇ってきたあのころの情景(感覚)!!

といふことでも、表面のI氏の書き物に關わって、私(堂本)なりの述懐を書き記しておきたい。それは、たとえ「〇〇世代」と呼ばれていなくても、我々の世代?には、れっきとした?それなりの時代情景(感覚)があつたといふことである!!それは、かの「高度経済成長期」を謳歌する前の、言わば「過渡(端境) 期感」であろうが(だから、〇〇世代と名付けられない?)、何らかの世代ではあつたといふことである!!

しかるに、思い起こせば、田舎出身(佐賀県唐津市の農村地)の私達(当時はI氏のみ?以下、同じ)からすれば、大学進学のために移り住んだ大都会?広島(本当にそう思っていた!)は、すべてが驚きであり、新鮮であつた!まさに純粹無垢な青年には(貧しかった!野球しかしてこなかった!)、とんでもない「時と場所」であつた!だが、一方では、思わぬ世界も待ち受けていた!いわゆる「学園(大学)紛争」と呼ばれるものであるが、それは、私達の世界観を大いに動かし(創り?)、その後の奇妙な?人生をも導いてくれた(かなりの紆余曲折もあつたが!)。

とは言え、当時の私達の思いや行動は、例えば、三田誠広の『僕って何』や村上龍の『限りなく透明に近いブルー』に、直ぐに刈り取られ、今や、さだまさしや水谷豊らによって、別な花として植え替えられている(実はみな同じ歳!三田は違う!)!!もちろん、それでよいのであるが、ただ私達には、もう一つの、『遅れてきた青年』(大江健三郎)が心のどこかにいる!!そう、私達は、勝手に?「遅れてきた(祭りは終わった?)」!!そう思つて生きてきたとも言えるが、その「祭り?」は、今も、どこかで、誰かが行い続けている!!否、見続けているとも!!

○文章表現における「自分なりの「こだわり」」!!

さて、(ここでも、ある意味?突然ではあるが、「自分なりのこだわり?」を開示してみよう!ただし、これは、私堂本よりも、I氏からの告白?であつた方が良いのかもしれない!!それはともかく、我々の文章には、とにかく「!!」という表記がやたら多い!断言してはいけないといふことでもあるが、最終的には、読み手側の同意によつて、その位相?を決めたいといふことである(迷惑な話かもしれないが?)!もちろん、自分自身は、基本的には「!」といふことではある!!

他にも、「括弧書き」が多い。読み手にとつては、「極めて不評」だといふことは分かっているが(本当である!)、どうしてもそのようになってしまふ!そして、可能な限り、接続詞を入れる!節/段落間の関係を明らかにするためであるが、書き手としての自分への意識づけという意味もある(ただし、同じ表現は使えないので、選択にはかなり苦慮している!)!とにかく、著述家としては、失格かも!!

〈短歌に託して!またまた暑い!秋よ、早く来い!〉

・偽善 創善 金儲け?

救いや感動あれば それもよし!!

・ある意味重なる 季節の贈答

だが、その遣り取り 極めて貴重!!

・〇〇世代? 何と呼ばれようが 我が人生!

無冠であつても それでよし!

・何故か蘇つた あのころの感覚!

でもそれは 自分だけの 〇〇世代!!

・自分なりのこだわり 客商売なら 〇〇法度!

でもつながれば それで本懐!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑩

○「倭国大乱」に端を発する、我が国の形(倭国→日本)!!

といふことで、ここからは、改めて、いわゆる北部九州(高良大社と背振山系周辺を中心とする地)で、どのような史実が展開されたのかといふことになるが、関わっている人物(多くは「神(命)姫」として登場している)としては、開花天皇(玉垂命)老松?、武内宿禰(藤大臣?)、住吉大神(塩土老翁?)、神功皇后(息長帯姫)といふことである!!もちろん、そこには「中国史書(『魏志倭人伝』等)中の「卑弥呼」や「台与」、そして「帥升」「難升米」「狗古智卑狗」等!さらには、「天照大神」「素戔嗚命」「大國主命」「大物主/オオナムチ」、そしてさらには「大幡主(奴國王?)」といったところであるが、彼らが、どういふ勢力で、どのように出会い、その攻防を繰り広げたかであるわけである!!

そこで、まず、改めて問題となるのは、その交わり・攻防の大きなきっかけであつた?2世紀末の「倭国大乱」といふことになるが、それはおそらく、それまでの盟主であつた「委(倭) 奴国」(博多湾沿岸地域)と、その隣国「伊都国」、そして、新たに登場してきた、内陸部の「邪馬台国」との、言わば三つ巴のせめぎ合いの経緯・形であるといふことになる(結局は、伊都国と邪馬台国が組んで、新たな連合国家を形成した?)!!

詳しいことは、ここでは示せないが、その経緯の中で、旧「委(倭) 奴国」の王族や、それとつながりのあつた「伊都国」の一部の?王族達が、その地を離れ、山陰、近畿、九州南部、さらには半島南部等にも移動し、それぞれが、新たな生活の場を創り出していった!!そして、その中で、新たに大きな勢力を創り上げた「出雲」と「吉備」の勢力が、邪馬台国連合や中国半島からの脅威を回避するためあつて、先に移動していた「尾張」「丹波」の集団(海部族?)とも力を合わせ、畿内大和で別な(新たな)中心を形成していった(↓纏向遺跡)!「記紀」は、そこをもつて、我が国のスタートとしている!!改めて、それは何故か?(つづく) (堂本)

〈編集後記〉とにかく、まだまだ暑い!時たま、涼しい風がペラペラから吹いてくるが、秋は、当分訪れそうもない!!それはともかく、書く(パソコンを打つ)という行為は、年毎に(極端に言えば日増しに?)過酷となっている!!古代史の方はともかく、他の題材のラインナップ、そして、目、腰、臀部、下肢の不具合が、それに拍車をかけている!!でも、これしかないのだ!! (井上ノ堂本)

「岳陽」と共に

第 12 号

発行日
2023. 9. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○知り過ぎる、分かり過ぎることはいいことか?!

さて、このことも、もう随分前から思い続けていたことであるが、それぞれの人生において、世界情勢や国内における様々な事件・事故等(その中には、いわゆる醜聞や闇の世界の出来事?も入っている!)を、これでもか、これでもかという形で、知り過ぎる、分かり過ぎる(ある意味知らされる?)ことは、本当にいいことなのか?!

そんなことを思ったりもしてきたわけであるが、単純に言えば、知らない(分らない)方が、むしろ幸せなのではないかということである!! そんな馬鹿なという人も、もちろん多々いるであろうが(過剰な?「知る権利」を主張する人々や、いわゆる「愚民政策」として批判する人々は、ここではともかく!!)、そこにある無力感や絶望感が、何とも哀しくて仕方がないということである(そつとしておく、分かる時に分かれればよいというようなことでもある?)!!
改めて、こんなことを言えば、それこそ「庶民」を愚弄しているとか言われそうだが(自らも庶民なので何とも言えないが?)、要は、気がつけば、知らなくとも(分からなくても)よいものまで、実に嫌というほど、見せつけられているということである!!何のために? それは、内外の情勢(沖縄のこと)であれ、宇宙や自然界、そして人間(人体含む!)のことであれ、膨大な情報に晒され、その解釈、反応(納得?)に、アレルギーさえ起こしてしまっているのではないかということでもある(科学やITの発展が、それに拍車をかけている?)!!

○ミッション(任務?やりがい?生き甲斐?)に想つ?!

先程、某銀行の○○さんから、突然の電話があった! 予期せぬ?転勤(職場移動?)で、来月から担当を離れることになるので、一度挨拶に来たいということであった! 同銀行の、言わばありふれた顧客対応の一環かもしれないが、ただ、そればかりではなさそうな感じでもあったので、いささか感動を禁じ得なかった!!

とは言え、結局は、そこまでする必要はないですよというので、丁重にお断りしたのであるが、それとは別に、ここで俄かに思ったことは(余計なことであったが?)、彼女が、どう思うか、その仕事(銀行員)をしているのか?ということであった!

というのも、丁度昨日(19日)、我が奥さんが深夜見ている、「転職」をサポートする仕事をしている若者達のドラマ(題名は覚えていないが!偶に、歯磨きをしながらチラ見している!)のことが、頭を過つたのである!!

折しも、先日終了した「Vivant」とも関係するが、仕事とか、ミッションというように、今更ながら、少し関心を向けているので、彼女には、少々(かなり?)迷惑であったかもしれないが、今日眺めていたネット記事の、教員の仕事とかミッションのことも含めて、考えた次第だということである!

要は、「Vivant」でのミッション(この場合は任務)については、少々荷が重いので、これ以上書きたくはないが、人は、折角人として生まれてきたわけであるので、自らの生活や仕事を、ある意味でのミッションと捉えていければなあと、改めて思ったということでもある!!

○私(達)は、今なお(永遠に?)「遅れている」?!でも:

ところで、先号(11)で、私(達)の世代には、「○○世代」というような、言わば、その時代を表象するような冠が着かない(強いて言えば、戦後復興の「端境期の世代?」)ということをも、多少自虐的に?書いたが、今回は、それを武器に? (ただ単に年を取ったということでもあるが?)、その「端境期の世代?」ということでも、全く私的な世界ではあるが、それを語ってみたい!

すなわち、我々の世代(「端境期の世代?」)が持っている(持たされている?)、かの「高度経済成長期前後の意識や感覚」が、今、どのような状態になっているのか?そういうことでもあるが(細かいところは、何とも言えないが?)、今、目の前にある、それぞれの現実(実体?)の、言わば構図(全体像?)みたいなものが見える(分かる?)!!しかし、それが故に、自分の人生、生き方に、その構図(全体像?)が、うまく取り入れられていないということでもある(まさに、「マージナルマン」?)!!

言い換えれば、こんな私(達)の世代意識や人生談義とは無関係に、世の中は動いている(しかも激変している?)!そして、新たな危機や不安要素が増大している!!まさに、その意味で、相変わらず、私(達)は、「時代の端境」に位置しているのかもしれない!!だから、私(達)は、「今なお(永遠に?)、遅れている?」!!そういうことであるのかもしれない!!

かなりの抽象で申し訳ないが、私(達)は、ある時代の端境期の中で生を受け、頑張り、そして、年を取ってきたのである!私(達)は、その時代の空気(もちろん物質的なものも含めて!)を、あるがままに吸い、そしてそれを、我が子を含めて、次の世代に伝えてきたのである(生者としての当然の営みであるが!)!!

ただそれだけのことであるが、それは、前の世代、そして、次の世代、「その双方に遅れている?」という、かなり奇妙な世代感覚でもあるわけである!!しかし、それは、ある種の特異?であるかもしれないが、「その時代」に生まれ、育った人間(世代)の糧であり、一つの意地でもあるということである!! (井上)

○与えられた正義(自由・平等・博愛十平和)!!

ということ、今回もまた、表面のI氏の書きモノに誘われて、かなりヘビーなものになるかもしれないが、今有している正直な思いを、ここでは、堂本としての立場から、改まって綴ってみたい!それは、標記のことと関係するが、次から次へと発生する、世の内外の事件・事故、不幸に対して、その原因・構図が、何ともやるせないものであるということである!!

つまり、ある特定の間人、特殊な国家だけが、その原因・構図を成しているのであれば、それはそれで、その対処法もあるのである(ただ、それさえも、現実には難しいのも事実!現今のウクライナ情勢!)、あの「国連」さえもが、何の手立ても出来ずにいる(その限界がどこにあるのかということも、今回改めて知らされた!)!!

本日は、分かりたくなかった!しかし、今の時代は、そういう訳にもいかない?そういうことである!しかも、出来るなら、こうして欲しい、こうあつて欲しいと思うのであるが、一方でまた、その原因・構図故に、心を痛めることはあつても、自らではどうしようもない状態となつていく!そのジレンマが、そこにあるということであるが、だから、学生時代に一時期流行つた? 「偽悪」という思いや行動も、ほとんど意味を成さない!!

しかも、それら「与えられた正義」さえも、ある国、ある人達にとつては、自らのものとなつてはおらず、それを獲得、ないしは回復すべきものとして、今もなお、彼らの現実の上を浮遊しているとも言える!!何と厳しい(哀しい?)現実なのであるか!!

とにかく、冷静に言えば、かの「自由・平等

等・博愛十平和」という観念は、我々の世代にとつては、言わば「与えられた正義」であつて、自らが苦勞し、勝ち得たものではない!それらが軽いものと言うことはできないが、その新しい現実態を、自らが、ある意味汗水流して創出していかなければいけない?そういうことなのかもしれない(ただし、それは、決して「誰かの犠牲(死)」によつてもたらされるものであつてはいけない!)!!

それもまた、別途述べたように、分かるようになったがためにそう思うのであるが、自分が持つている価値観や経験値では、如何ともしがたい!!また、そういうものを生かす場や関係が消失している!!もちろん、それが「老いる」ということでもあろうが、単なる世代間の違い(ある意味では宿命?)で終わらせてしまつてはいけない!!そう思いながらの、今現在でもあるということである!!

〈短歌に託して〜気持ちだけでも、迎えつつある秋!!〉

・ 知り過ぎる 分かり過ぎることは
よいことか? それもこれも 己次第!!

・ ミッション 上からは 複雑だが
見つけたものなら それは貴重!!

・ 我が世代には 二重の遅れ?
だが今となつては それが糧!!

・ 与えられた正義? たとえそうであつても
大切なものは 大切なのだ!

・ 逆転の発想? 実はそれは必然のこと!
何故ならそこに 真実ある故!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕②

○逆転の発想?が必要! 「記紀」編纂の舞台裏!!
そこで、改めてであるが、記紀編纂(当時の政權は、そのような古代史の真相を知つて(分かつて)いた?)だから、彼らの、編纂(ここでは「日本書紀」)の課題意識は、如何にそれを、自らに都合の良いものにするかであつた!!つまり、ある意味「最初から」、そこには「用意されたストーリー(骨格)」があつた!!そういうことである!!

すなわち、書紀編纂の基本原則(藤原氏・持統天皇の正統/正当性の主張が、そこにはあつたということであるが、そこに、各地・各様の古文書も言ひ伝え等を材料として(重要氏族の家伝や、収集した「風土記」等を利用して)もちろん、そうしなければ、枝葉は描けない!!、大きな物語を創り出したということである(「神話」の創作・架上げ、その大きな武器やなつた?)!!

ただし、直接の『日本書紀』記述者(原案作成者)は、自らの矜持(Andro 怨怒?)でもつて、どこかに、その真実(虚実?)を伝えようとした(例えはわざと「あり得ない話」を挿入するとか?怪げな「謎かけ」を行うとか?)!!また、一方の『古事記』は、それ以上に(これだけは真実を伝えたい!だが露骨な反逆は避けたい!)、誰か(おそらく「多(木)氏」?)が、密かに別途用意したものであつた(だから、本日は「記紀」という括りは間違ひである!)!!

ということ、こういう史実解明の視点は、まさに「逆転の発想?」と言え、知れば知るほど(私の場合は、手に入る、一部の研究成果あるいは論者の知見からかもしれないが)ただし、それは、自分で言つても鼻糞がましいが、かなりの量である(言つてもない!)、そう思えてくるのである!!

要は、そのように見れば、これまでの多くの矛盾や謎?が、不思議なくらい鮮明に見えてくるということであるが、特にここでは、この「記紀」が隠そうとした、いわゆる「倭国大乱」前後の状況、とりわけ北部九州の状況が、実際は、どのようになつていたのか?そこを明らかにしなければいけない!そこに、「記紀」が暗示している、そして、編纂者達が、そこから繰り広げられてきたと認識している、つまり、そこがスタートであると考えられた、今現在(当時)の状況があるということである!! (堂本)

〈編集後記〉9月末、少しは涼しくなつてきたので、これからは、大いに外に出たい!そして、運動(ただし、ジョギング程度?)もしたい!出来れば、県外への旅もしたい!果たして、どうなるか?古代史の方は、新たな旅枕のネタも欲しい!! (井上/堂本)

